

資料2

事業用自動車事故発生状況及び事故の特徴について

近畿運輸局 自動車技術安全部保安・環境課

近畿地域事業用自動車安全対策会議

全 国

- 交通事故件数は、過去10年でみると半減しているが、令和2年以降は横ばい傾向。業態別では貸切バス・タクシーで令和4年から増加が見られる。(P3)
- 交通事故死者数は、交通事故件数と同様に過去10年でみると減少傾向にあるが、令和2年以降は横ばい。業態別ではタクシー・トラックで令和4年より増加が見られる。(P4)
- 飲酒運転事故件数は、トラックにおいて大きく増加が見られ、軽貨物については高止まりの傾向。(P10)
- 健康起因事故については、報告件数は令和4年比で増加しているが、人身事故件数は横ばい。(P11)
- 大型車の車輪脱落事故は増加傾向にあり、冬季(11月～2月)に集中して発生(P15-16)

近 畿

- 事業用自動車の人身事故件数、死者数、重傷者数は全体的に減少しているが、令和2年以降は横ばい傾向。
- 飲酒事故件数は、令和3年以降増加傾向であり、軽貨物で8件、軽貨物以外で6件となる。(P20)
- 総合安全プラン2025における近畿の目標については、いずれの目標においても未達成となる。(P21-22)
- 各モードにおける重点目標についても未達成となっている。(P23-26)

特 徴

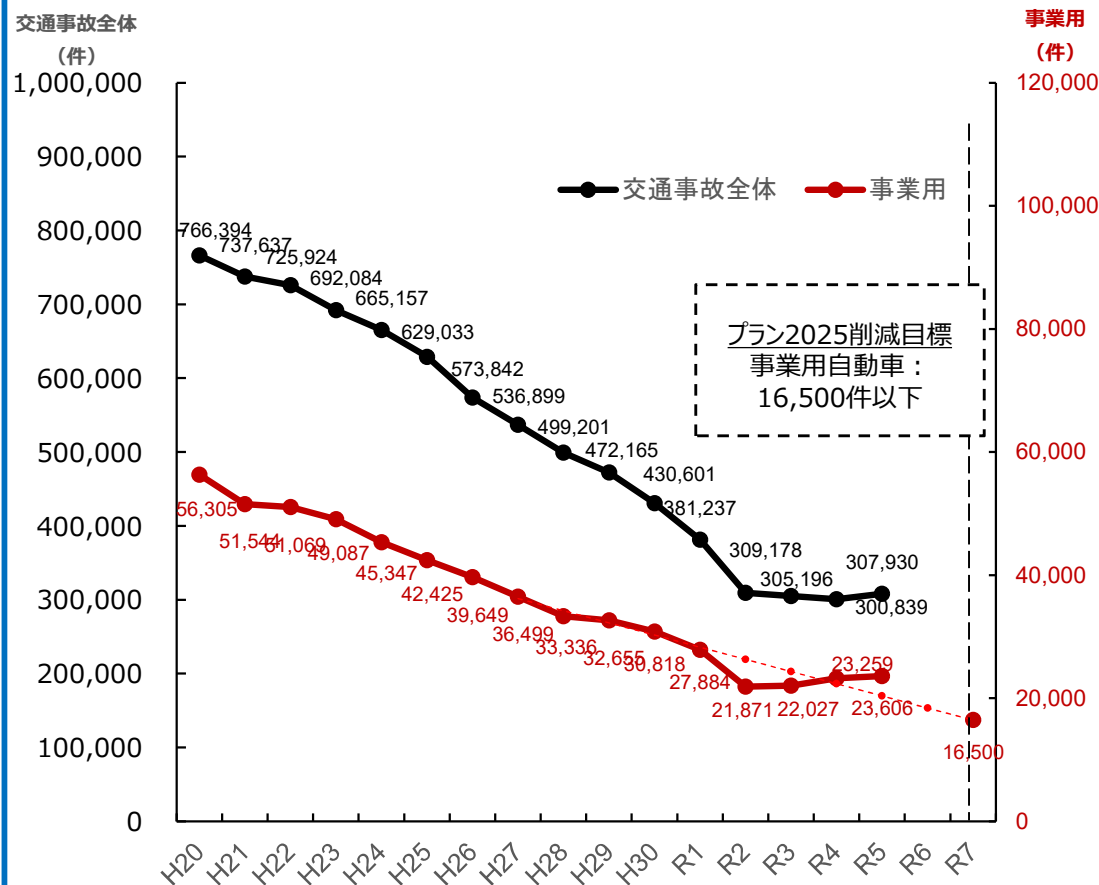
- 全体的にコロナ禍からの輸送量回復により件数の増加が見られる。特に外出自粛等の影響を大きく受けた貸切バス・タクシー事故件数が増加している。
- 軽貨物の輸送需要の高まりを受け、事故件数などが高止まりの傾向となっている。

事業用自動車による交通事故件数の推移

- 令和5年中に発生した交通事故全体の件数(人身事故件数)は300,839件、そのうち、事業用自動車の交通事故件数※は23,606件となり、過去10年間で半減しているものの、直近数年間は横ばい傾向。
- 令和5年の各モードの交通事故件数は、令和4年と比較してタクシー・貸切バスは増加、乗合バス・トラックは減少。

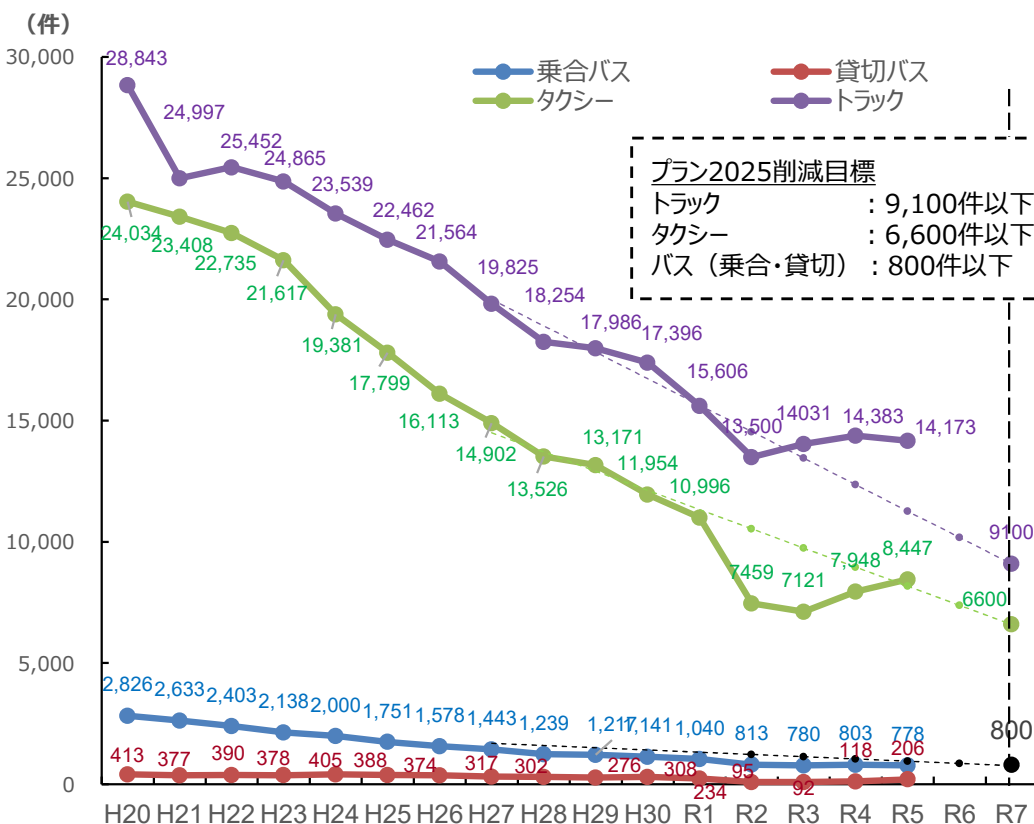
※ 事業用自動車が第一当事者である人身事故件数

交通事故全体と事業用自動車の交通事故の推移



出典：警察庁「令和5年中の交通事故の発生状況」
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

各モードの交通事故の推移

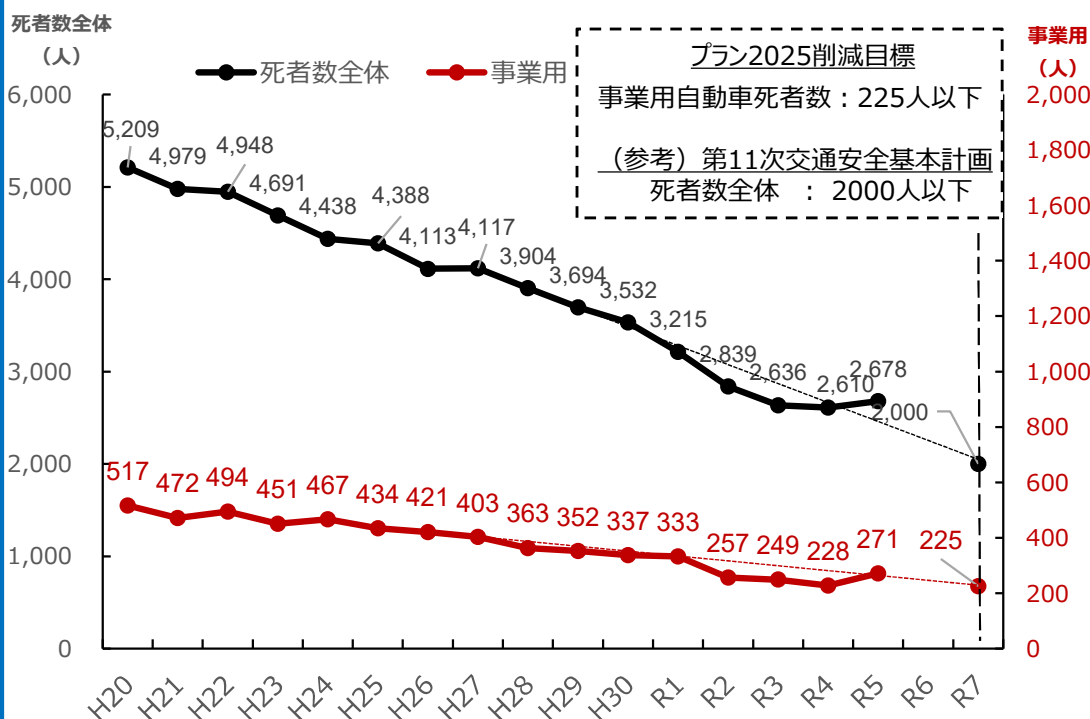


出典⑥(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

事業用自動車による交通事故死者数の推移

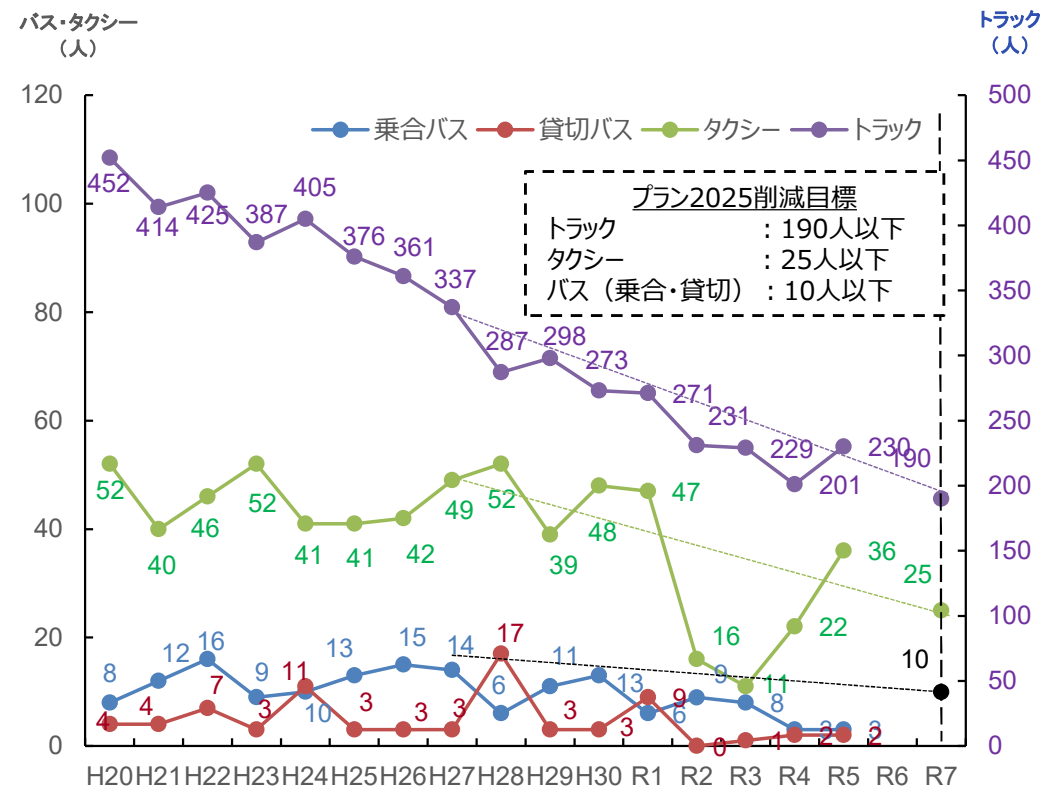
- 令和5年中に発生した交通事故全体の死者数は2,678人であり、そのうち、事業用自動車の交通事故死者数は271人(前年比43人増)であった。
- 令和5年の各モードの交通事故死者数は、令和4年と比較してタクシー・トラックは増加、乗合バス・貸切バスは横ばい。

交通事故全体と事業用自動車の交通事故死者数の推移



出典：警察庁「令和5年中の交通事故の発生状況」
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

各モードの交通事故死者数の推移

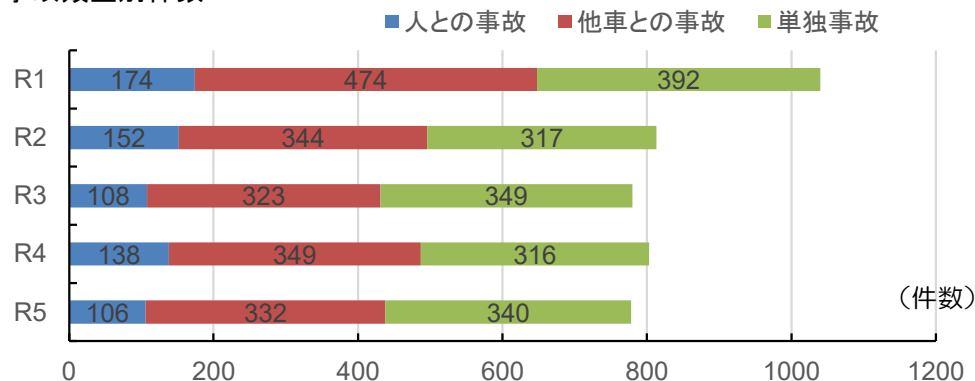


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

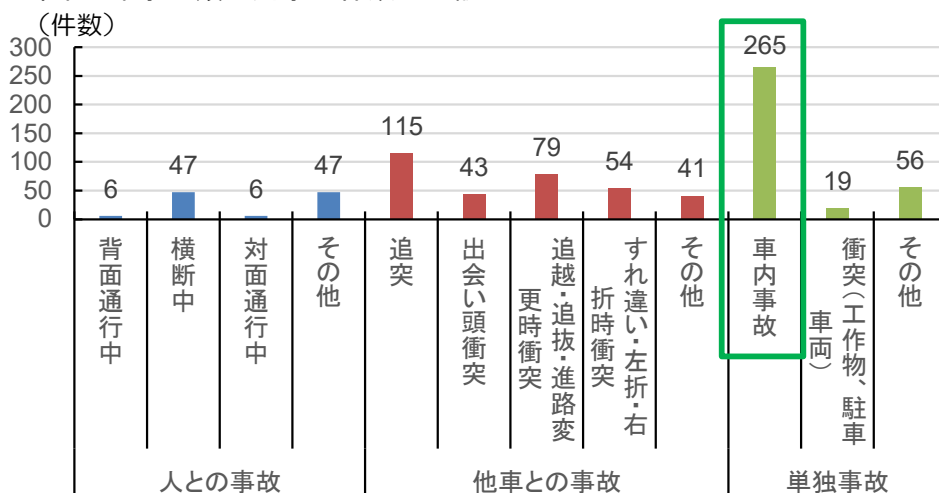
- 乗合バスの事故類型としては、「車内事故」が全体の約3割にあたる265件発生しており、最多。
- 乗合バスの死亡事故類型としては、「横断中」などの人との事故及び「出会い頭衝突」であった。

乗合バスの事故類型

○事故類型別件数

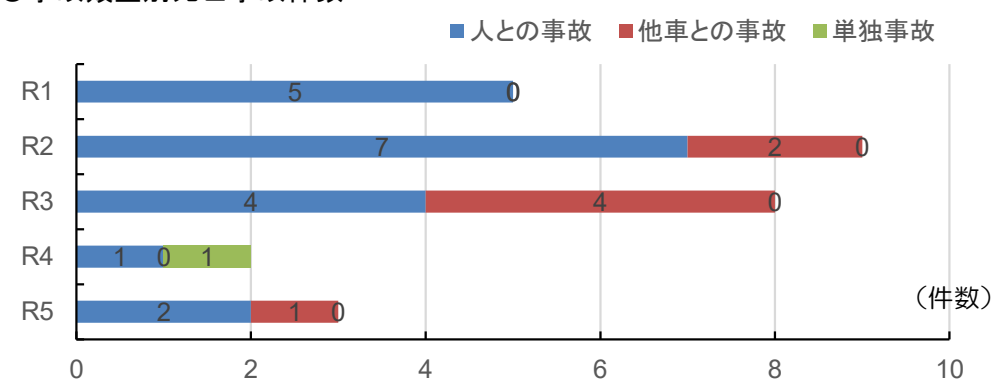


○令和5年事故類型別事故件数の内訳

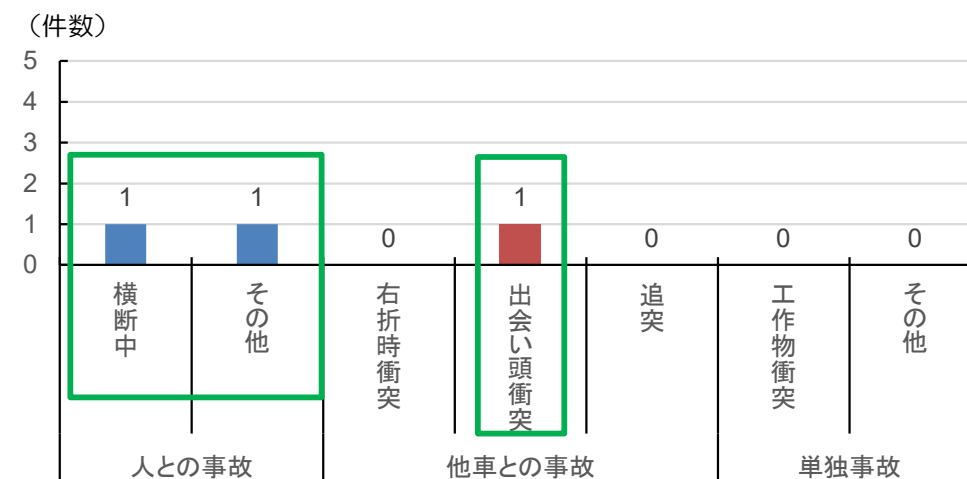


乗合バスの死亡事故類型

○事故類型別死亡事故件数



○令和5年事故類型別死亡事故件数の内訳



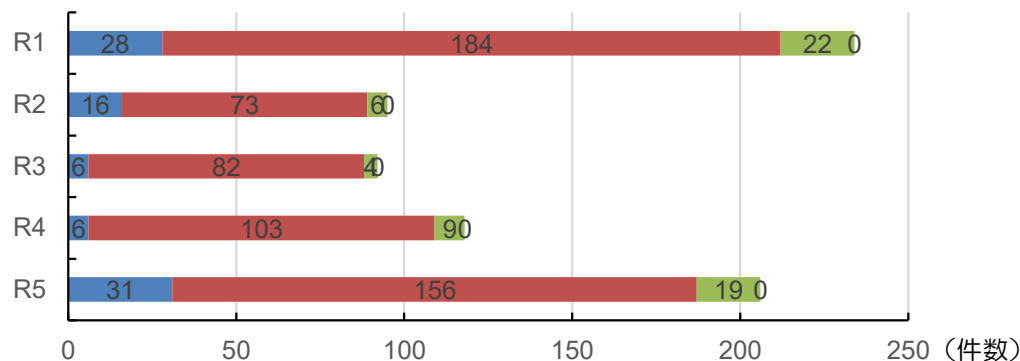
業態別の特徴的な事故(貸切バス)

- 貸切バスの事故類型としては、「**追突**」が全体の約3割にあたる60件発生しており、最多。
- 貸切バスの死亡事故類型としては、「**背面通行中**」及び「**横断中**」の人との事故であった。

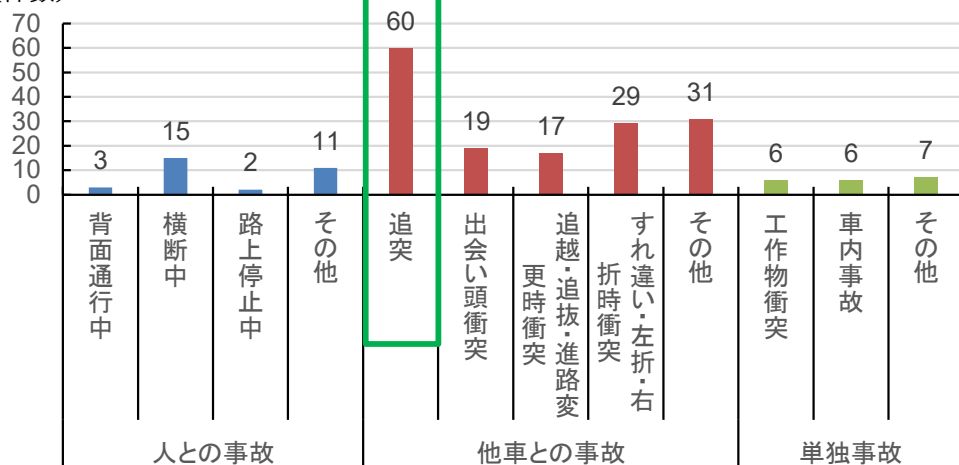
貸切バスの事故類型

○事故類型別件数

■人との事故 ■他車との事故 ■単独事故 ■列車



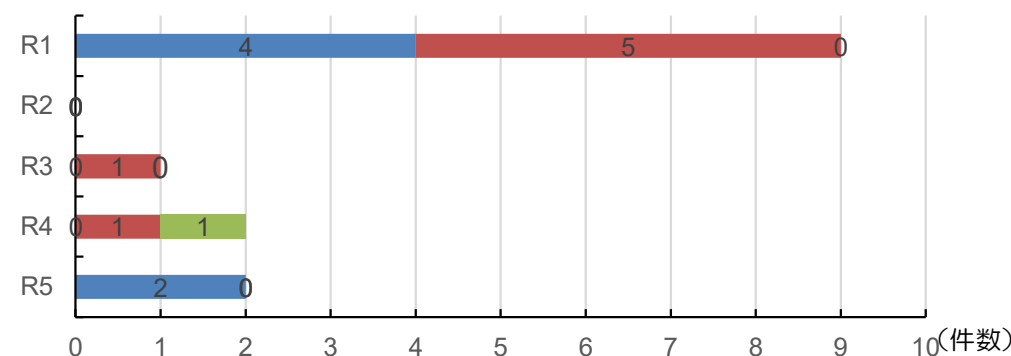
○令和5年事故類型別事故件数の内訳
(件数)



貸切バスの死亡事故類型

○事故類型別死亡事故件数

■人との事故 ■他車との事故 ■単独事故



○令和5年事故類型別死亡事故件数の内訳

※令和4年の5件は、出会い頭衝突と、工作物衝突により発生したもの。

出典:(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

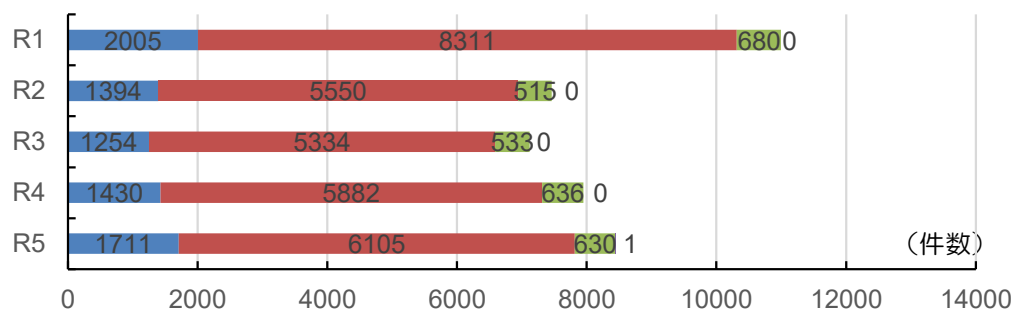
業態別の特徴的な事故(タクシー)

- タクシーの事故類型としては、「出会い頭衝突」、「追突」、「右左折時等の衝突」が多い。
- タクシーの死亡事故類型としては「横断中」の人の事故が最も多い。

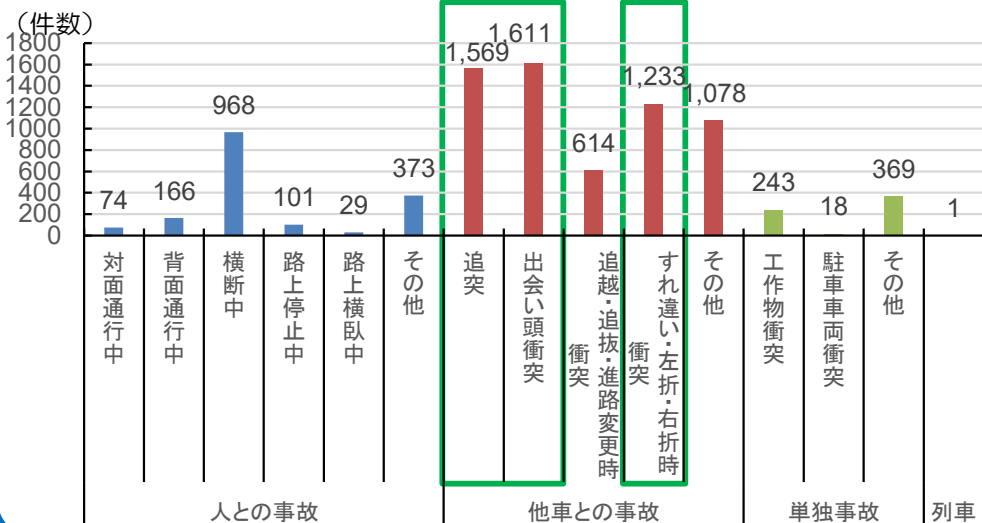
タクシーの事故類型

○事故類型別件数

■人との事故 ■他車との事故



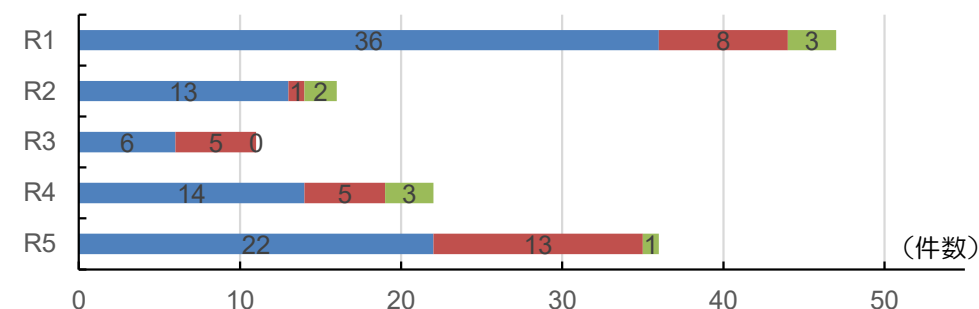
○令和5年事故類型別事故件数の内訳



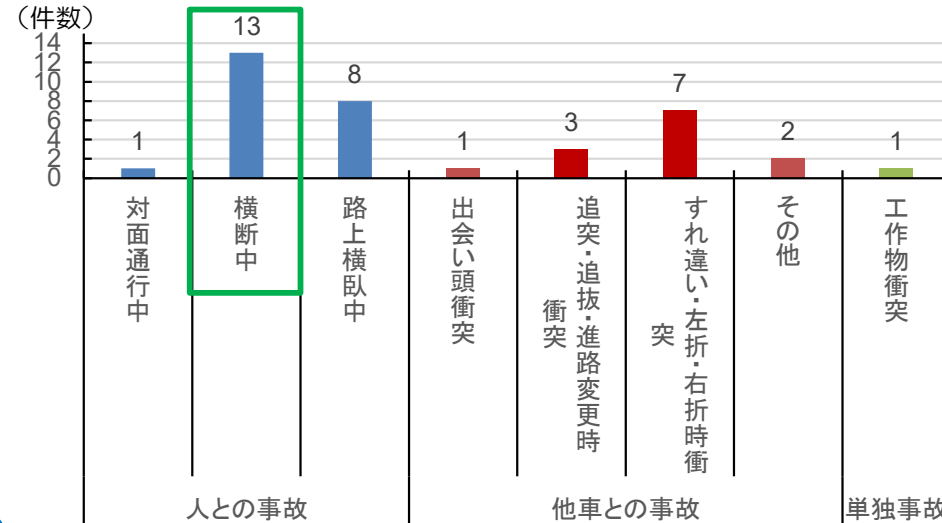
タクシーの死亡事故類型

○事故類型別死亡事故件数

■人との事故 ■他車との事故 ■単独事故



○令和5年事故類型別死亡事故件数の内訳

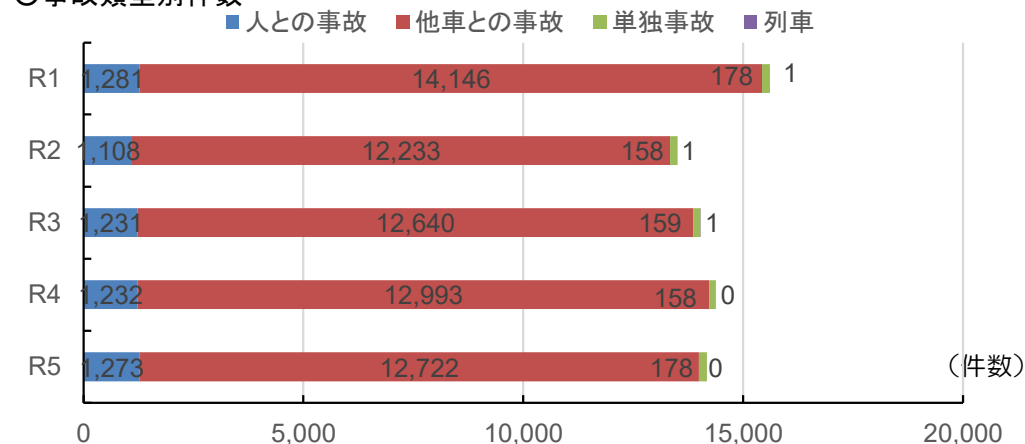


業態別の特徴的な事故(トラック)

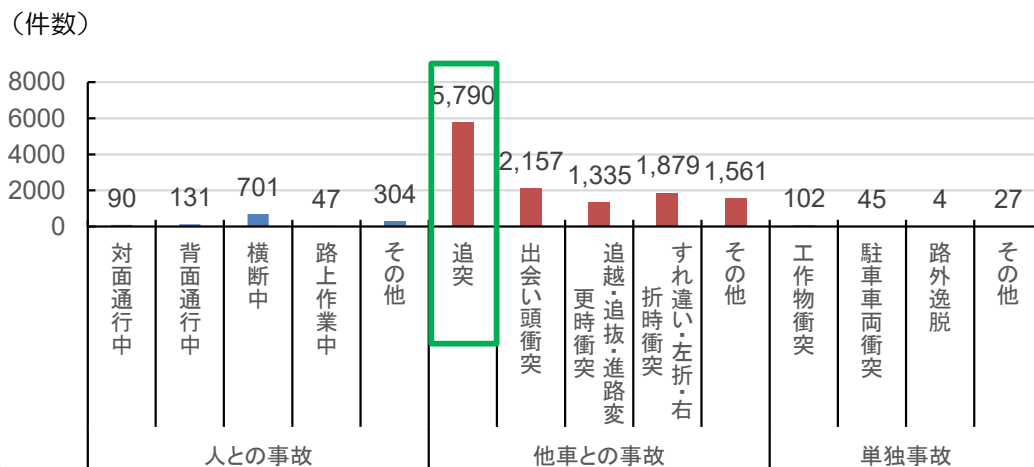
- トラックの事故類型としては、「追突」が全体の約4割にあたる5,790件発生しており、最多。
- トラックの死亡事故事故類型としては、「横断中」の人との事故が最も多い。

トラックの事故類型

○事故類型別件数

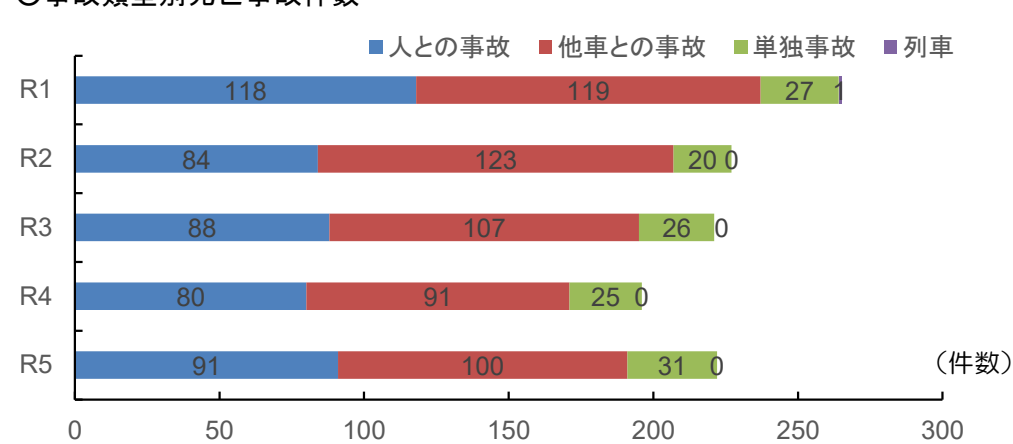


○令和5年事故類型別事故件数の内訳

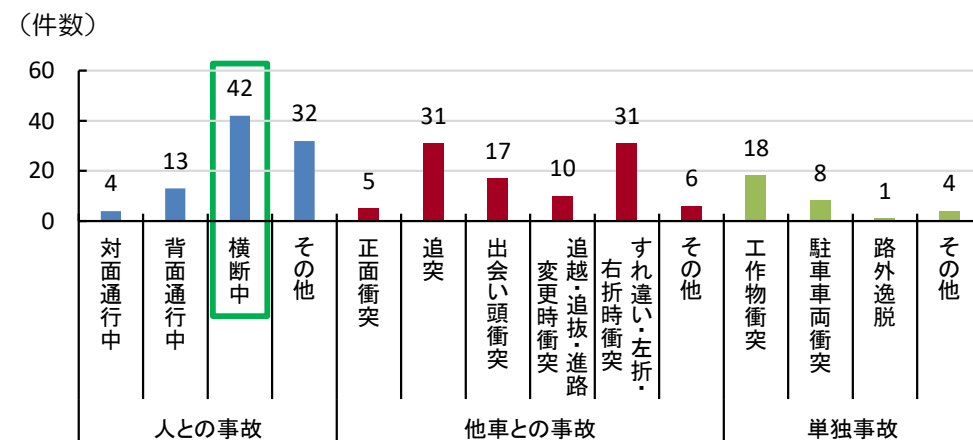


トラックの死亡事故類型

○事故類型別死亡事故件数



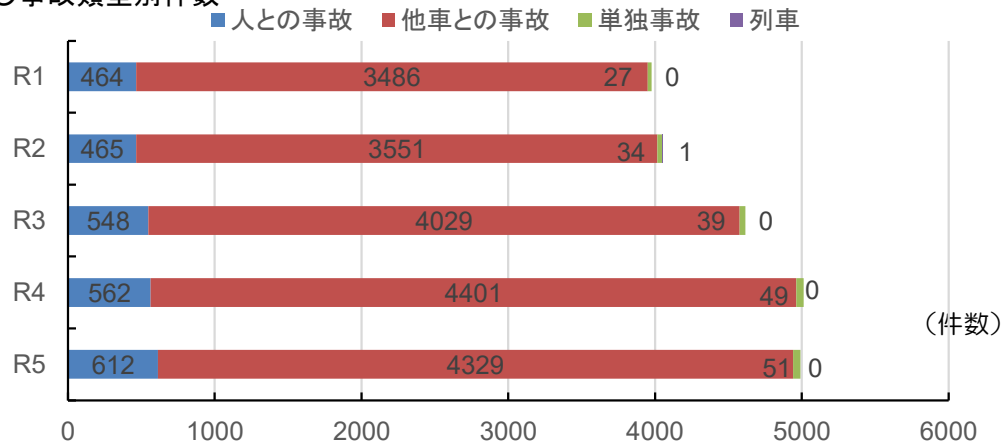
○令和5年事故類型別死亡事故件数の内訳



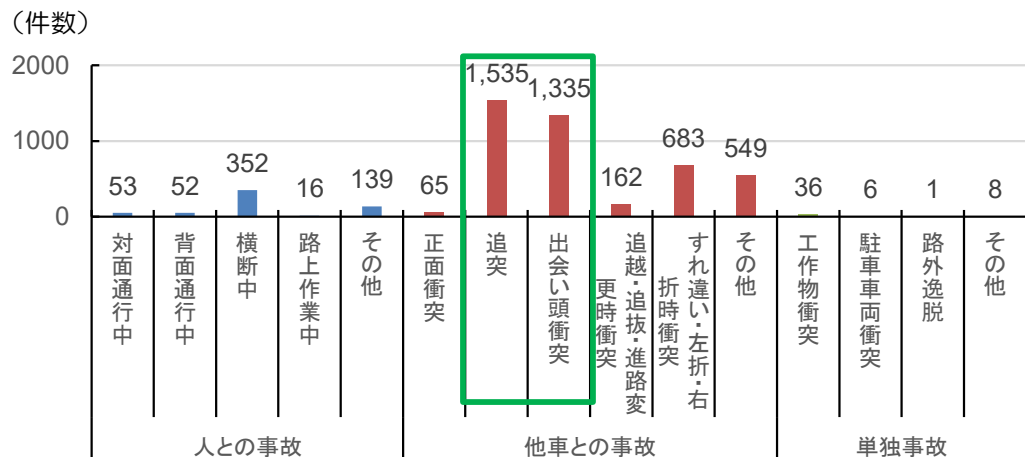
○ 軽トラックの事故類型としては、「追突」、「出会い頭衝突」が多い。

軽貨物の事故類型

○事故類型別件数

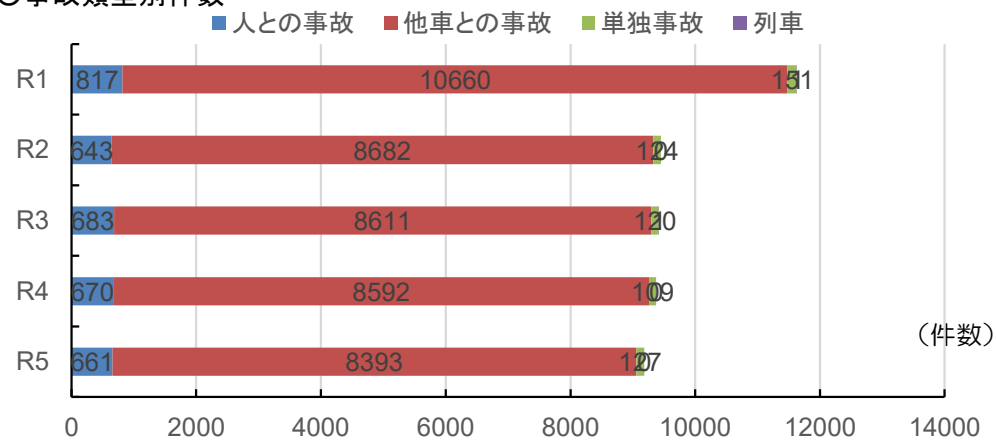


○令和5年事故類型別事故件数の内訳

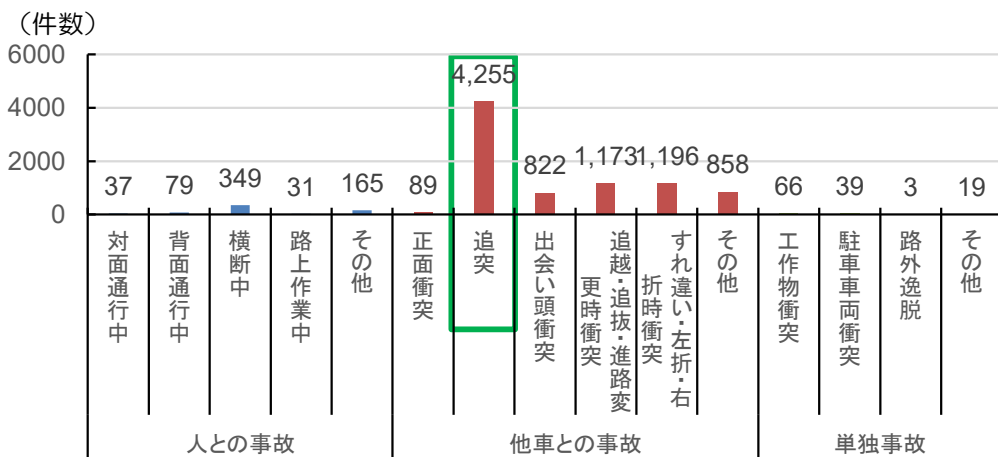


軽貨物以外のトラックの事故類型

○事故類型別件数



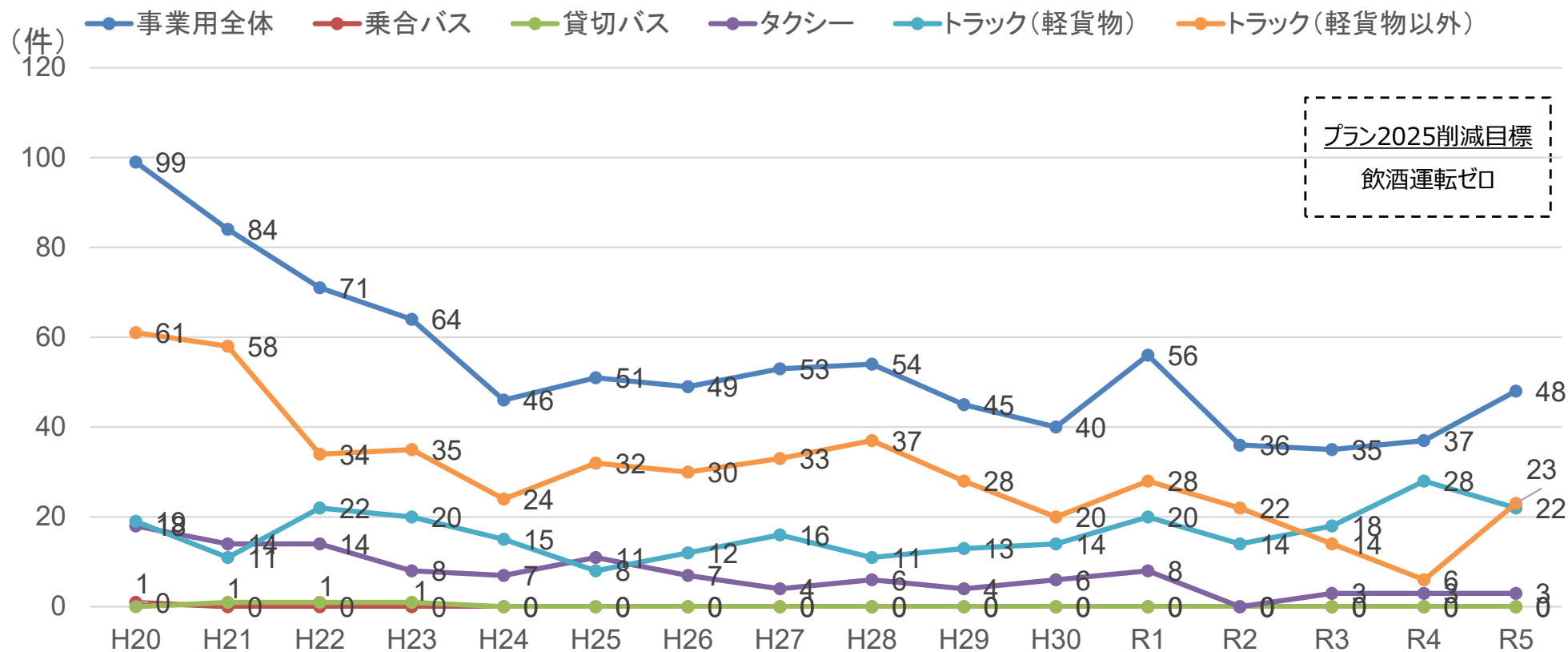
○令和5年事故類型別事故件数の内訳



事業用自動車による飲酒運転事故件数の推移

○ 事業用自動車による令和5年の飲酒運転事故件数は48件で、令和4年と比較して11件増加。

飲酒運転による事業用自動車の交通事故

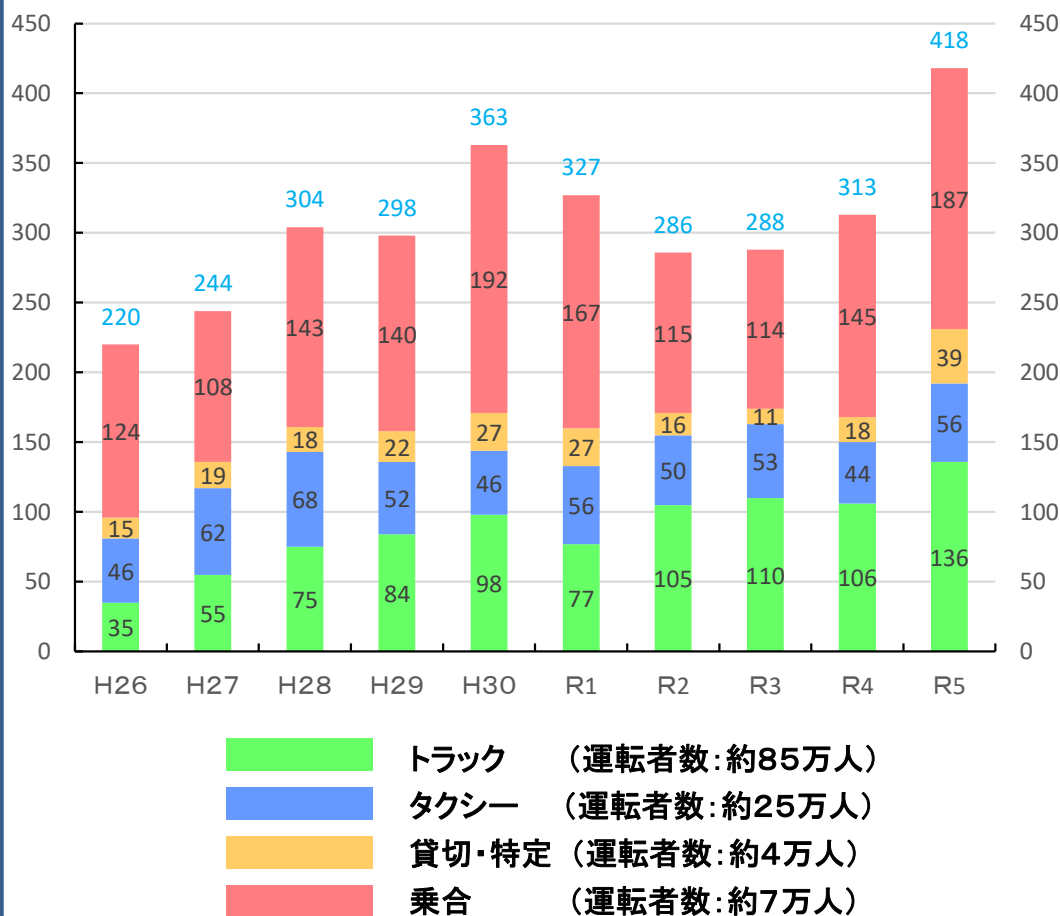


出典：警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

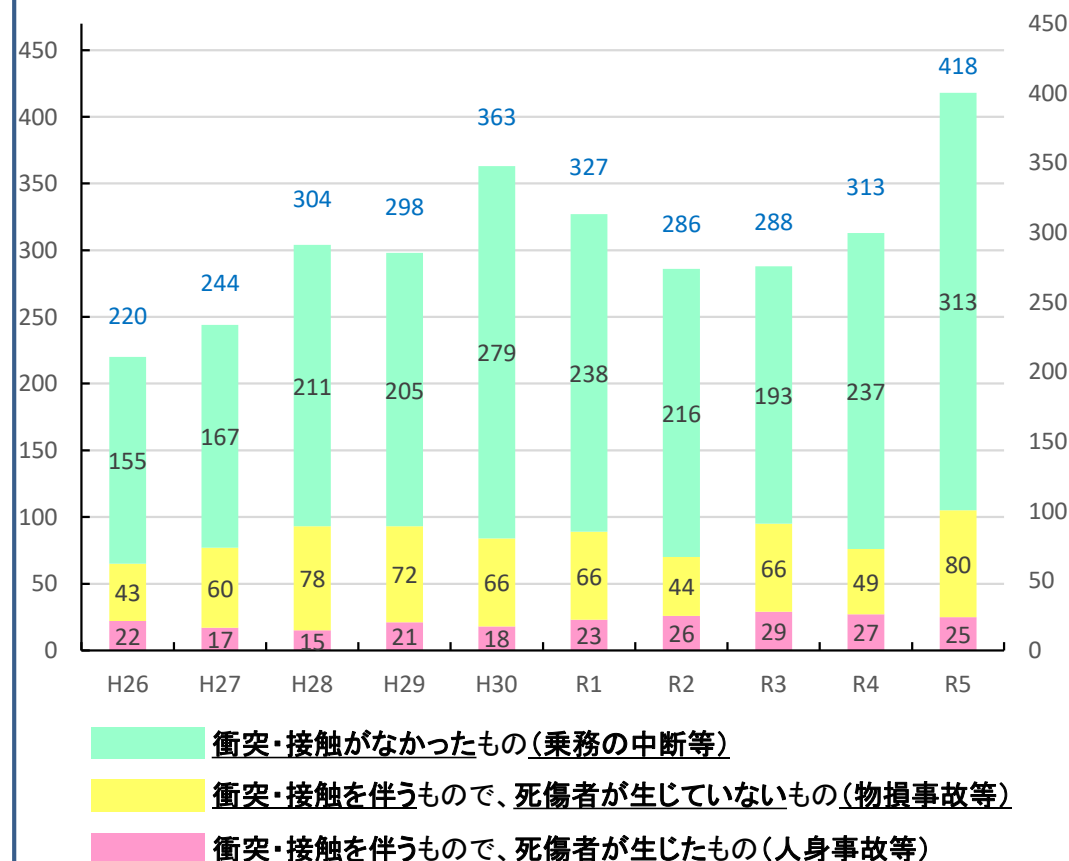
○運転者の疾病により事業用自動車の運転を継続できなくなった事案として、自動車事故報告規則に基づき報告のあった件数は、増加傾向に転じている

○令和5年は健康起因事故報告件数のうち約25%が交通事故に至っているが、人身事故件数は横ばいの状況

健康状態に起因する事故報告件数 (業態毎の件数)

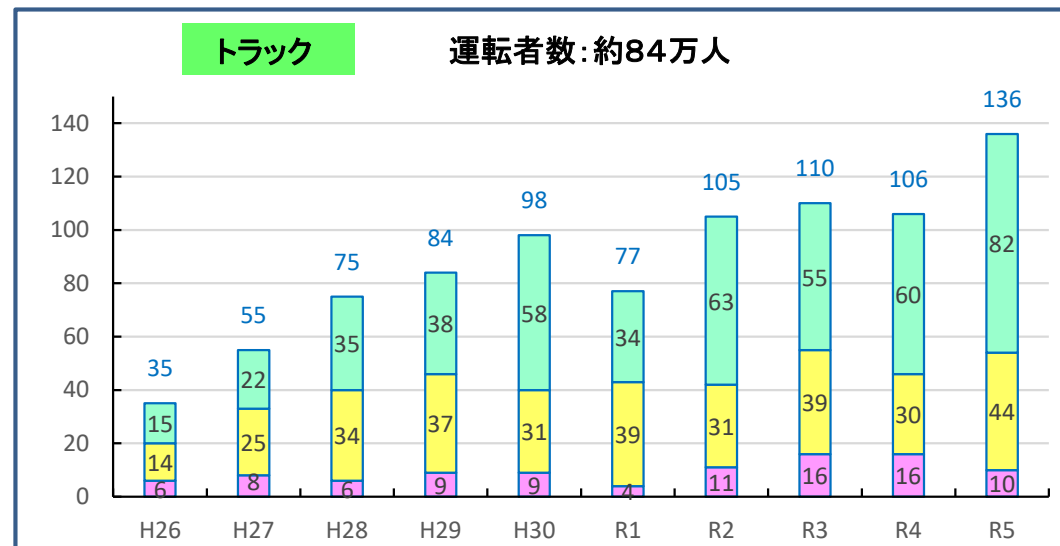
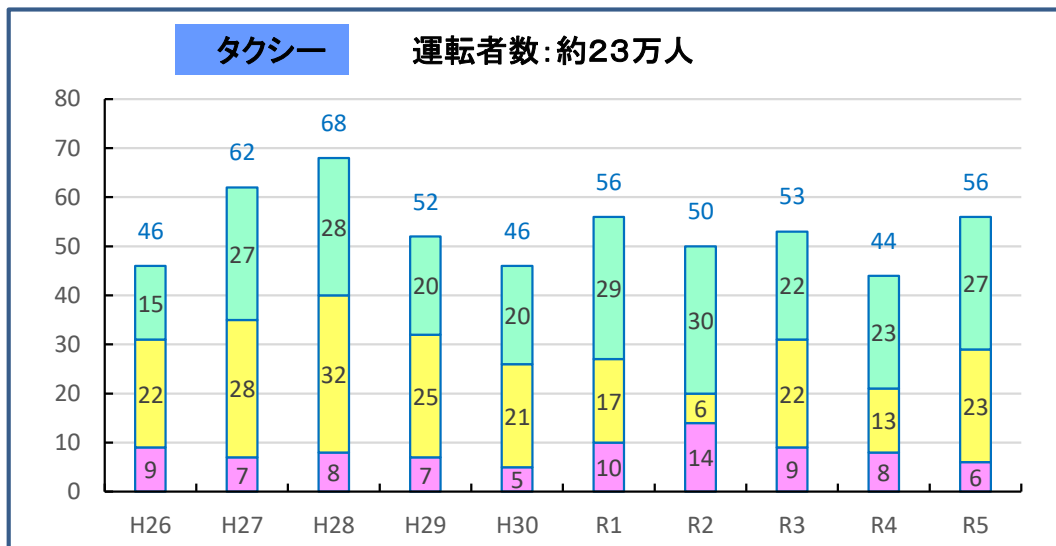
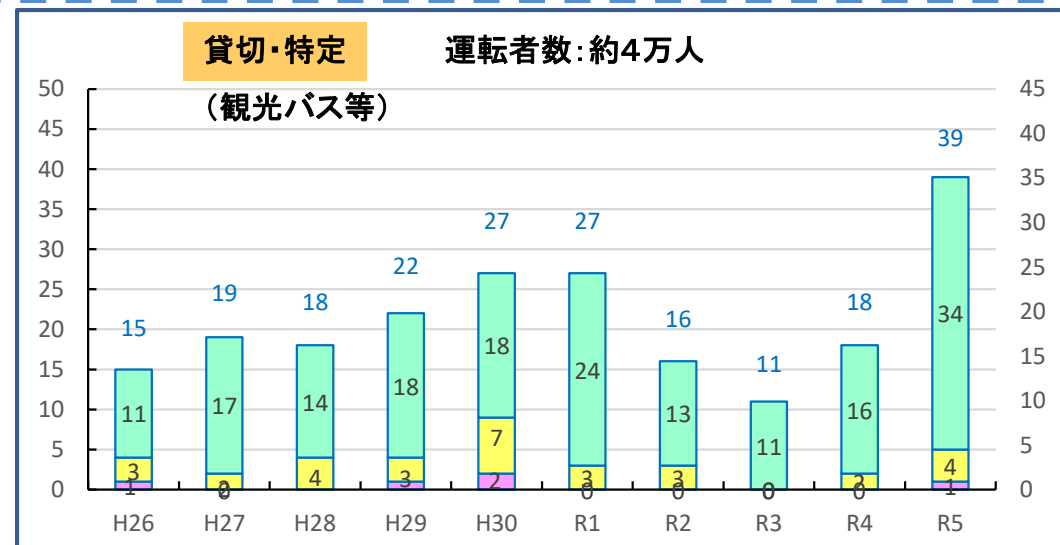
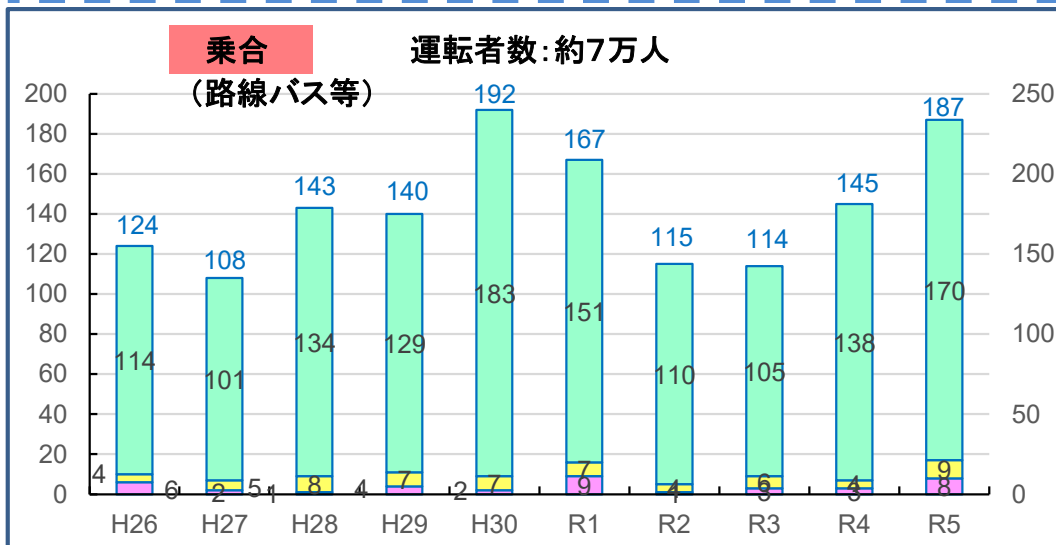


健康状態に起因する事故報告件数 (報告内容毎の件数)



業態別の健康状態に起因する事故報告件数の推移

- 各モードにおいても健康起因事故の報告件数は令和4年比で増加している。
- バスの多くは事故に至らずに乗務の中断を実施している一方、タクシー、トラックでは約半数が事故に至っている。
- 各モードにおいて、運行の中断等、交通事故に至らなかった事案が令和4年比で増加している。



衝突・接触がなかったもの(乗務の中断等)

衝突・接触を伴うもので、死傷者が生じていないもの(物損事故等)

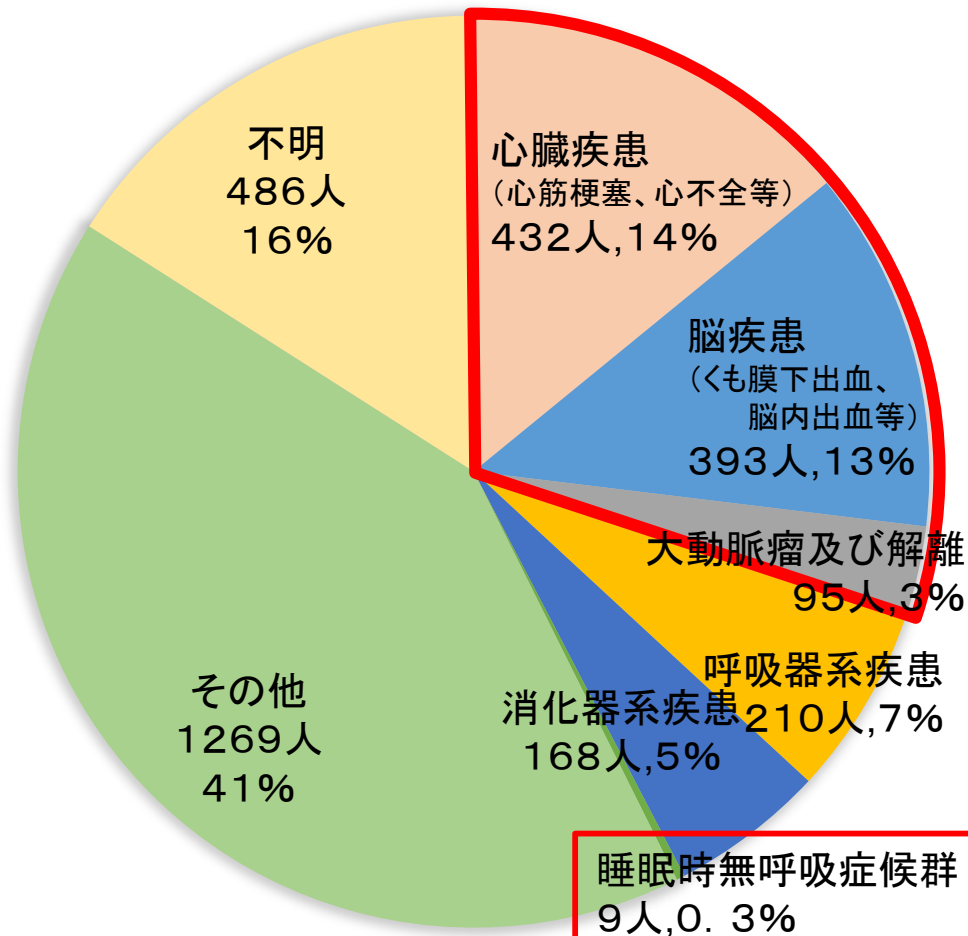
衝突・接触を伴うもので、死傷者が生じたもの(人身事故等)

健康起因事故の疾病別の内訳(平成26年～令和5年)

- 過去10年間で健康起因事故を起こした運転者3,062人のうち心臓疾患、脳疾患、大動脈瘤及び解離が30%を占める。
- うち、死亡した運転者491人の疾病別内訳は、心臓疾患が55%、脳疾患が10%、大動脈瘤及び解離が14%を占める。

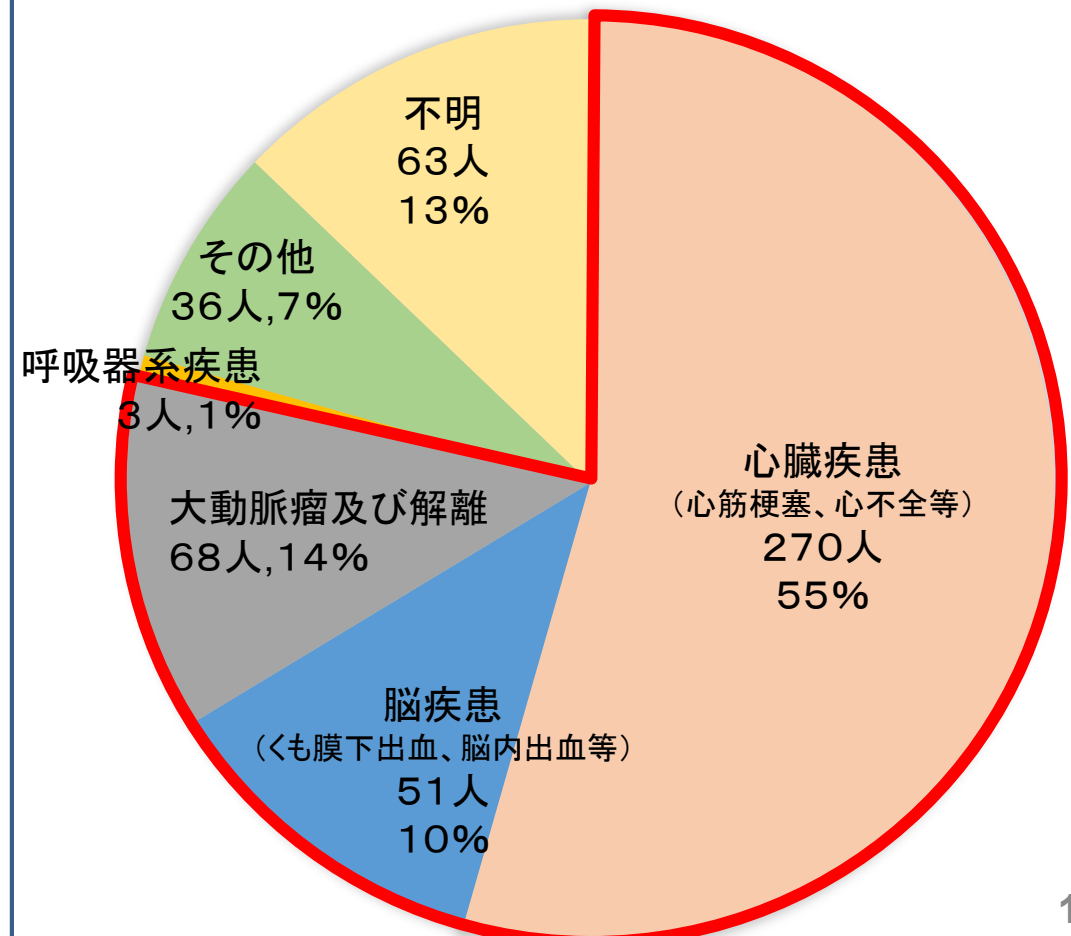
健康起因事故を起こした運転者の疾病別内訳 (平成26年～令和5年)

計3,062人



健康起因により死亡した運転者の疾病別内訳 (平成26年～令和5年)

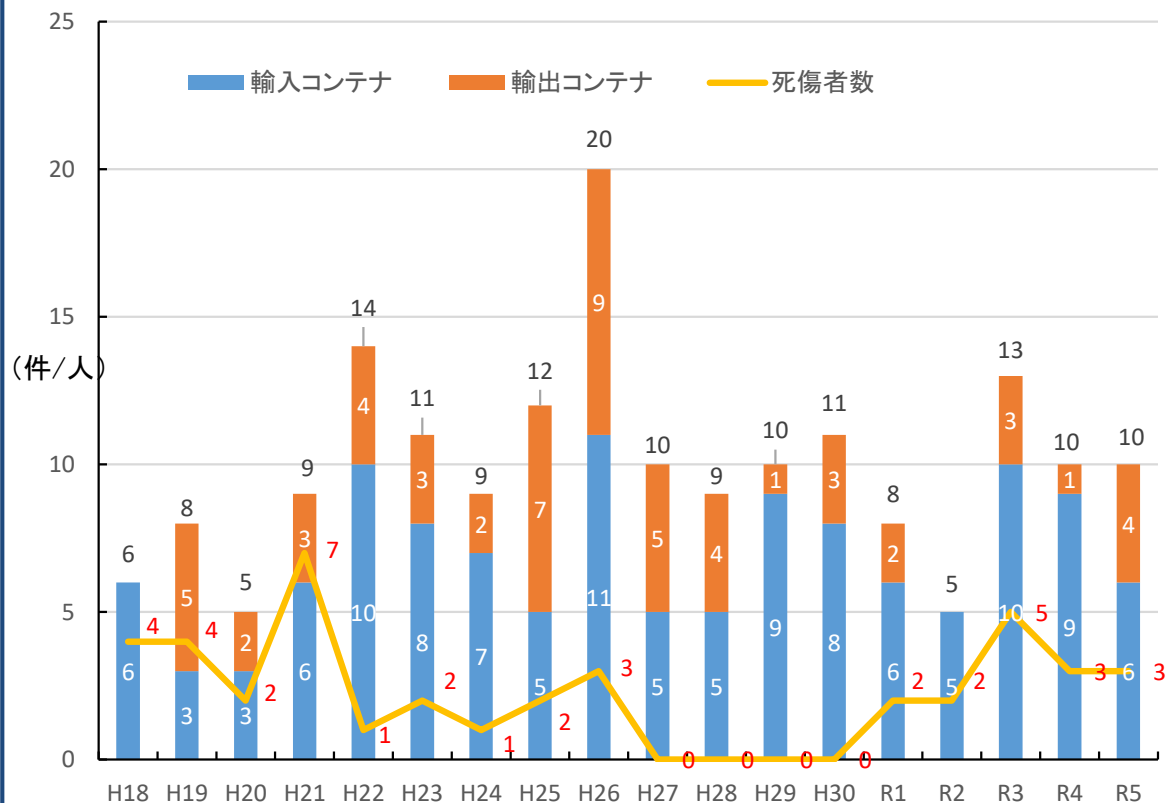
計491人



- 国際海上コンテナの横転事故等の発生件数は近年横ばい傾向。令和5年の事故件数は10件であり、うち6件は輸入コンテナにより発生している。
- 国際海上コンテナの横転事故等による死傷者数は令和元年以降増加。令和5年は死者が2名発生しており引き続き事故防止に向けた取組が必要。

海コン横転等事故発生状況

横転事故等発生件数 （自動車事故報告規則に基づき報告があったもの）



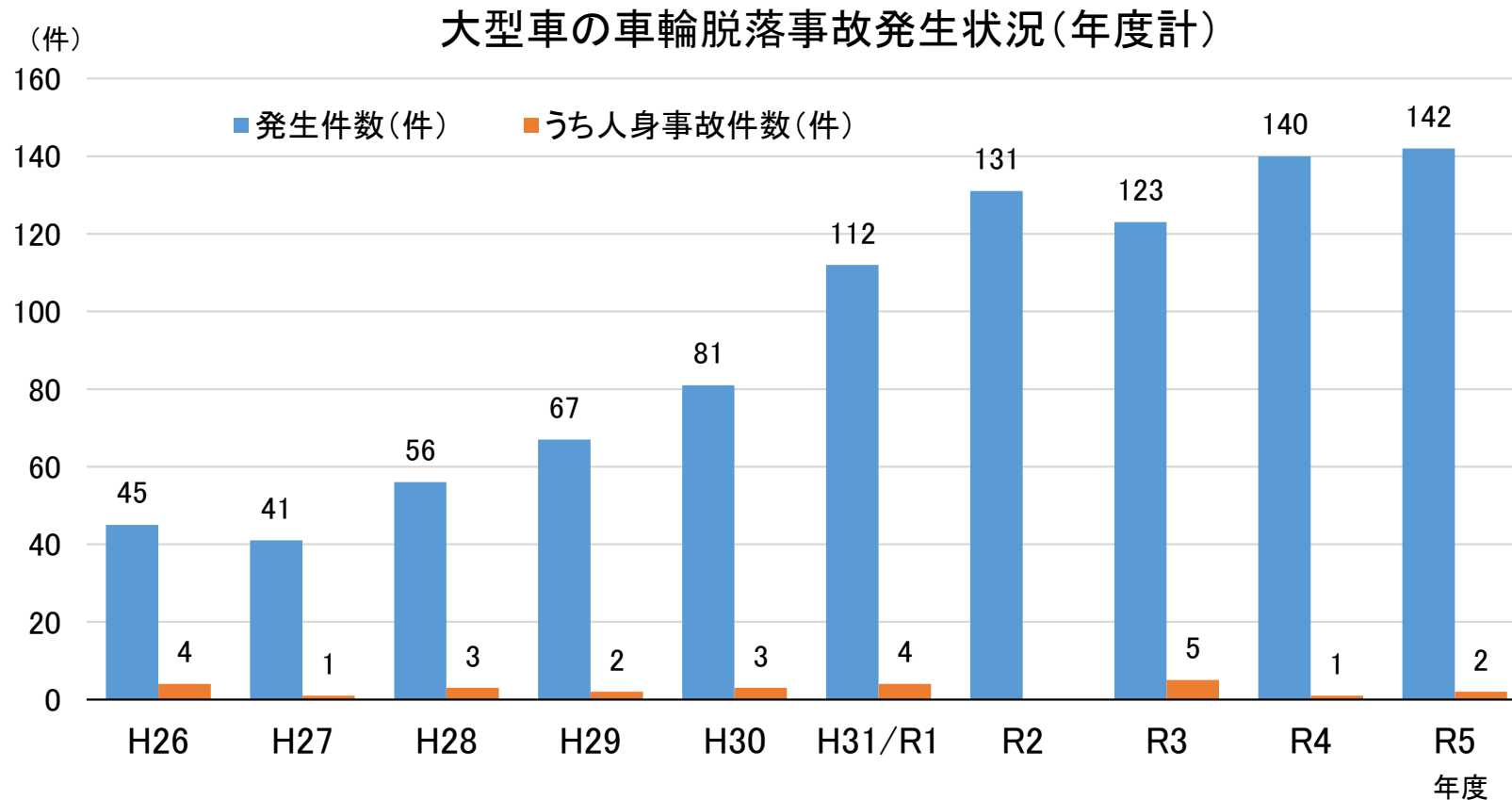
横転事故等による死傷者数

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
死者数	2人	2人	2人	4人	1人	1人	1人	1人	3人	0人
重傷者数	2人	2人	0人	3人	0人	1人	0人	1人	0人	0人

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
死者数	0人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	2人
重傷者数	0人	0人	0人	2人	2人	3人	3人	1人

年度別の大型車の車輪脱落事故の発生件数

- 大型車の車輪脱落事故の発生件数は増加傾向にあり、令和5年度は142件発生、令和4年度(140件)より2件増加した。
- 車輪脱落事故に伴う人身事故は2件、内1件は死亡を伴う事故であった。

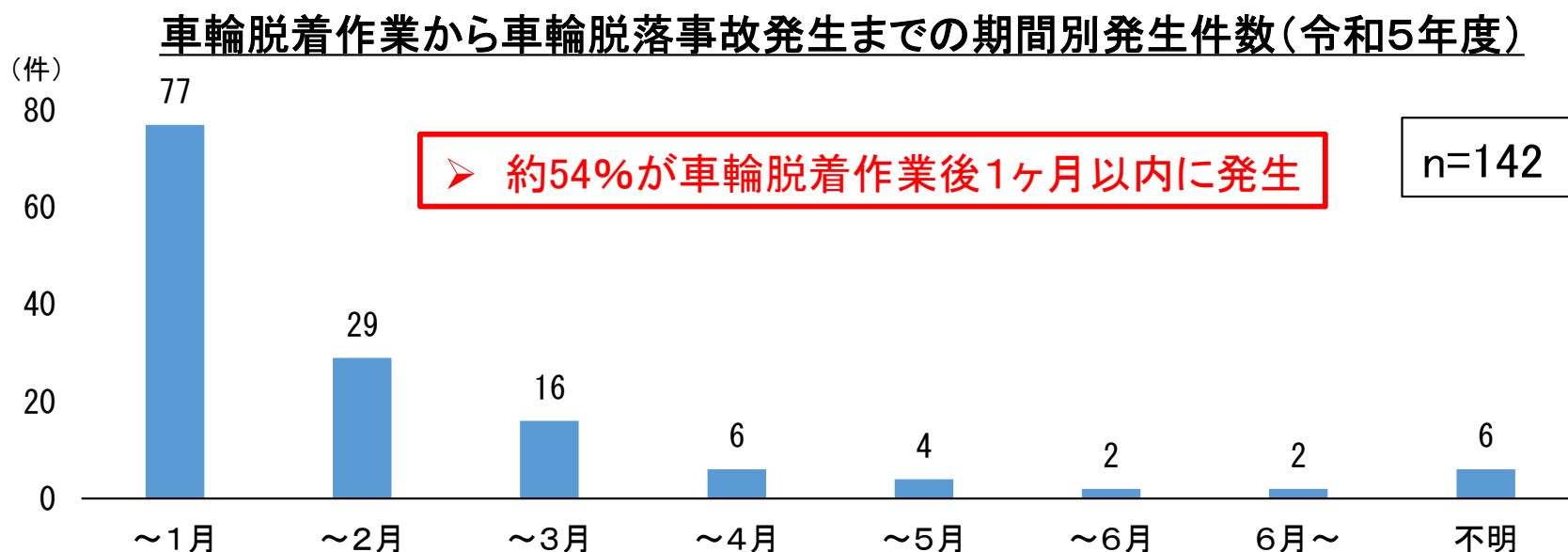
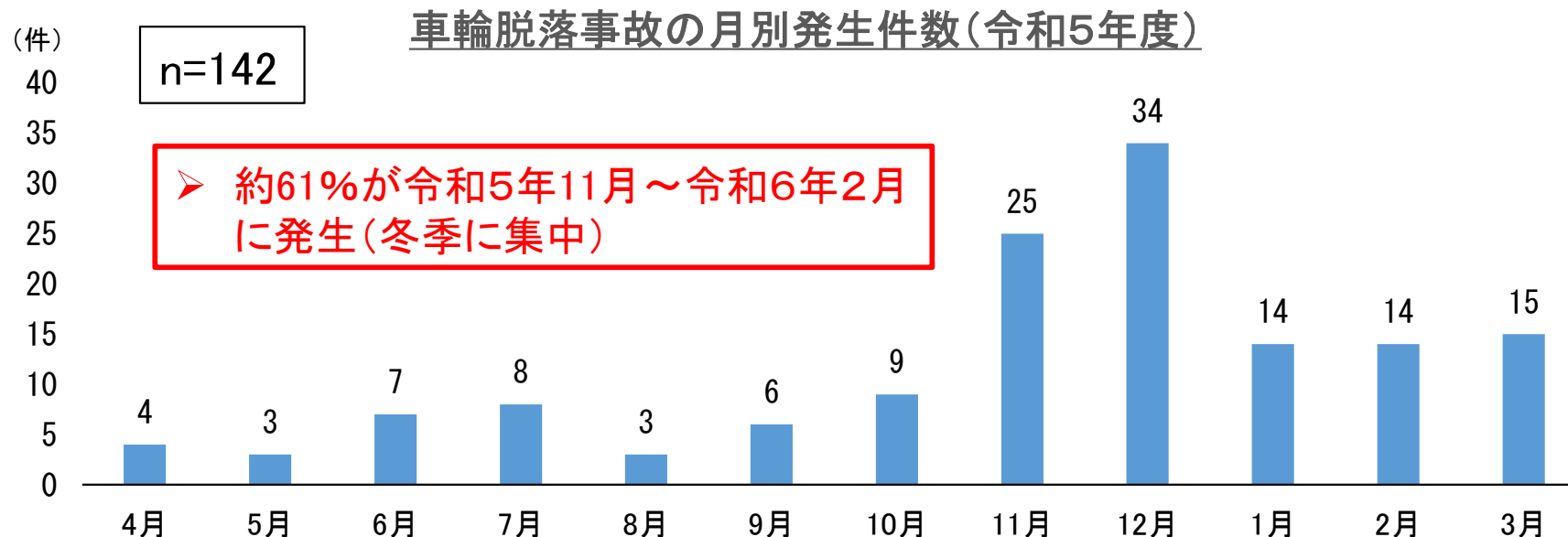


※ 1 車両総重量8トン以上の自動車又は乗車定員30人以上の自動車であって、車輪を取り付けるホイール・ボルトの折損又はホイール・ナットの脱落により車輪が自動車から脱落した事故

※ 2 大型車の内、乗車定員30人以上の自動車の件数(H27年度:3件、H28年度:1件、H29年度:1件、H30年度:3件、H31/R1年度:1件、R2年度:0件、R3年度:2件、R4年度:2件、R5年度:1件)

出典:自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

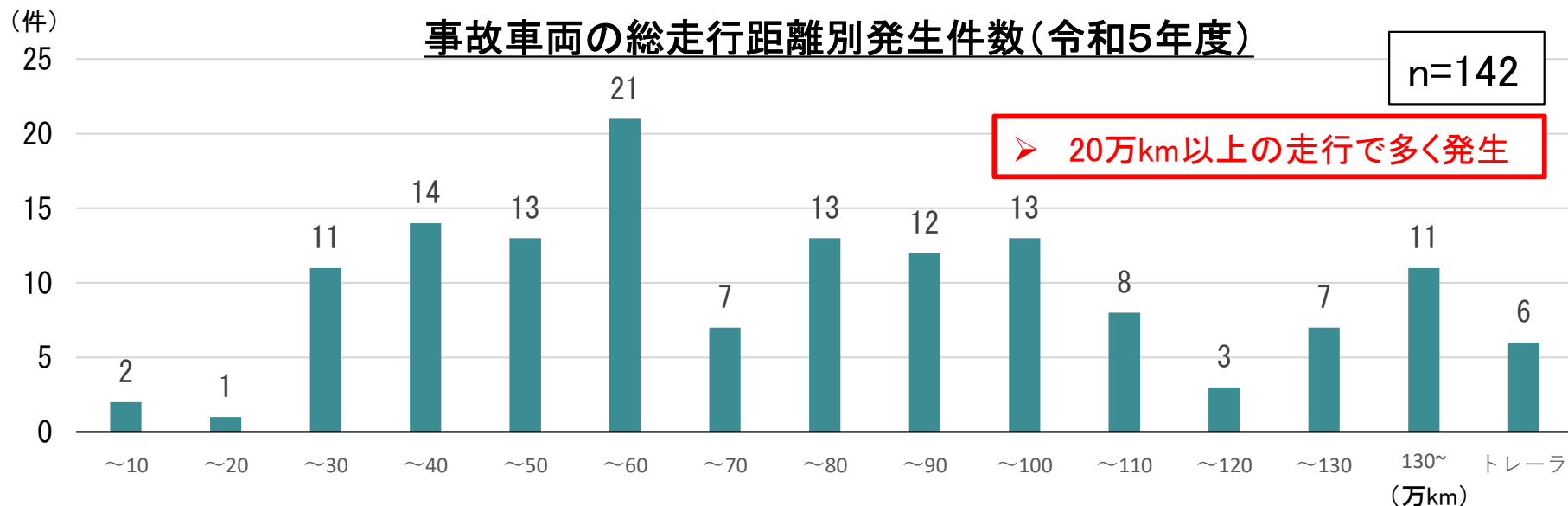
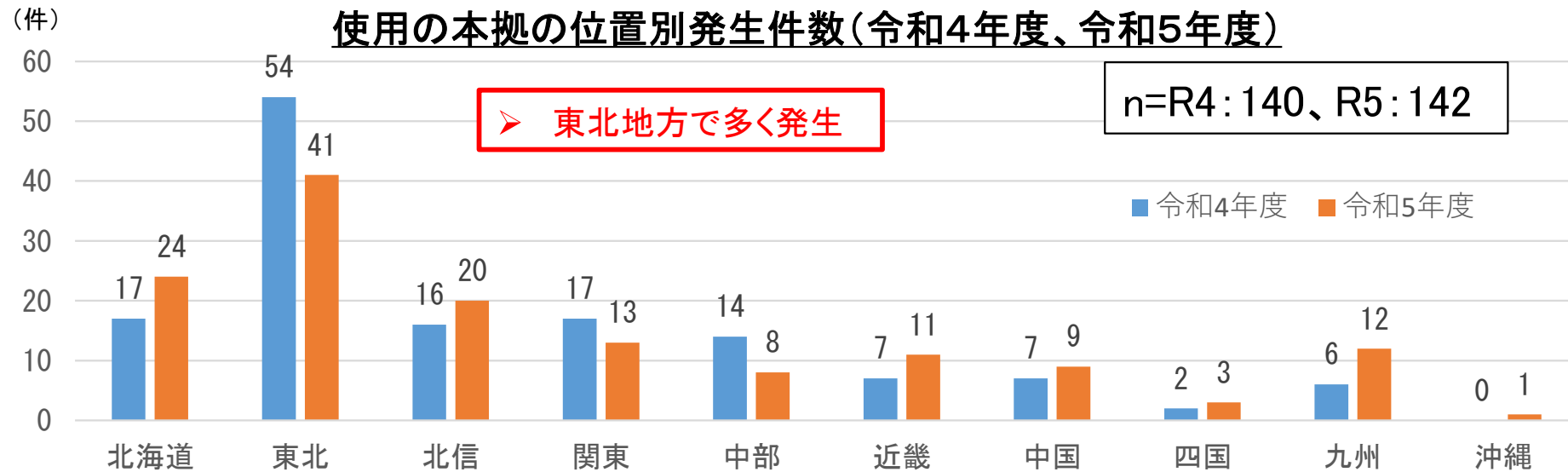
令和5年度 大型車の車輪脱落事故発生状況②



※ 車両総重量8トン以上の自動車又は乗車定員30人以上の自動車であって、車輪を取り付けるホイール・ボルトの折損又はホイール・ナットの脱落により車輪が自動車から脱落した事故

出典:自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

令和5年度 大型車の車輪脱落事故発生状況③

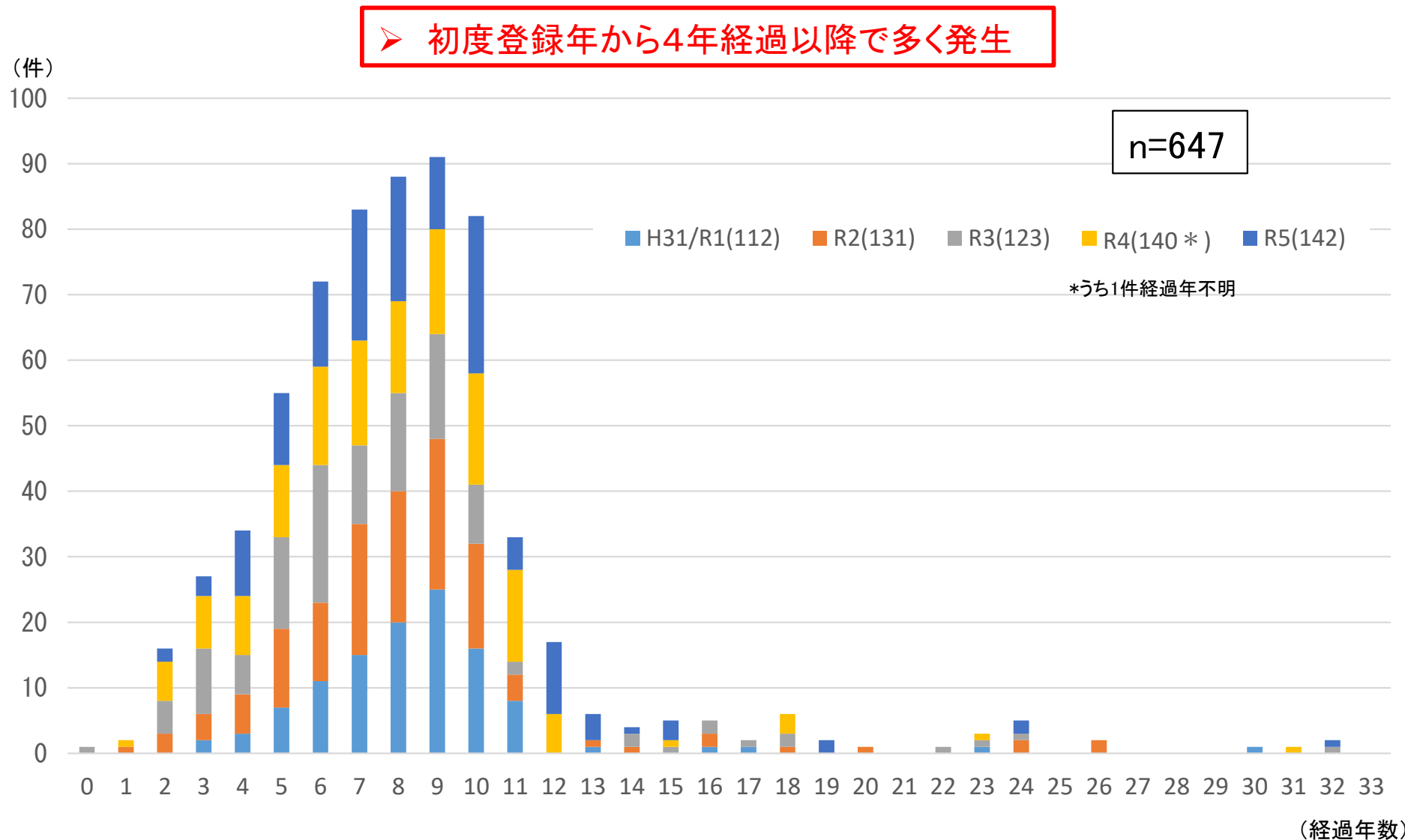


※ 車両総重量8トン以上の自動車又は乗車定員30人以上の自動車であって、車輪を取り付けるホイール・ボルトの折損又はホイール・ナットの脱落により車輪が自動車から脱落した事故

出典:自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

令和5年度 大型車の車輪脱落事故発生状況⑤

車歴別の車輪脱落事故の発生件数(平成31年/令和元年度～令和5年度)



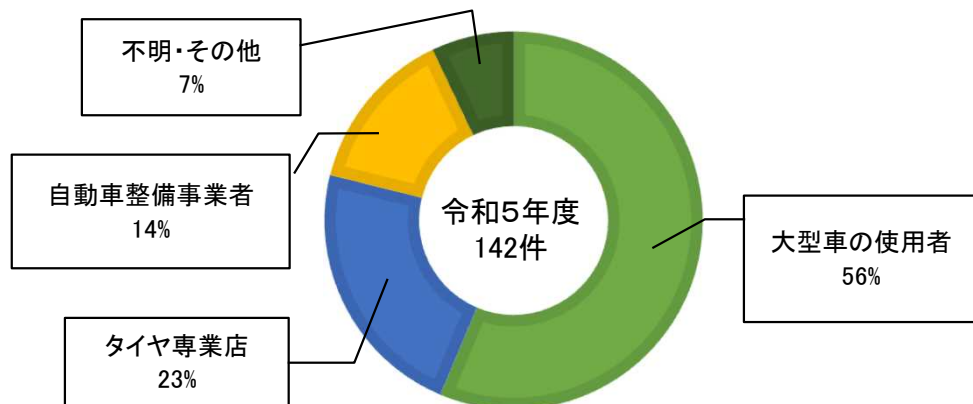
※ 車両総重量8トン以上の自動車又は乗車定員30人以上の自動車であって、車輪を取り付けるホイール・ボルトの折損又はホイール・ナットの脱落により車輪が自動車から脱落した事故

出典: 自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

令和5年度 大型車の車輪脱落事故発生状況⑥

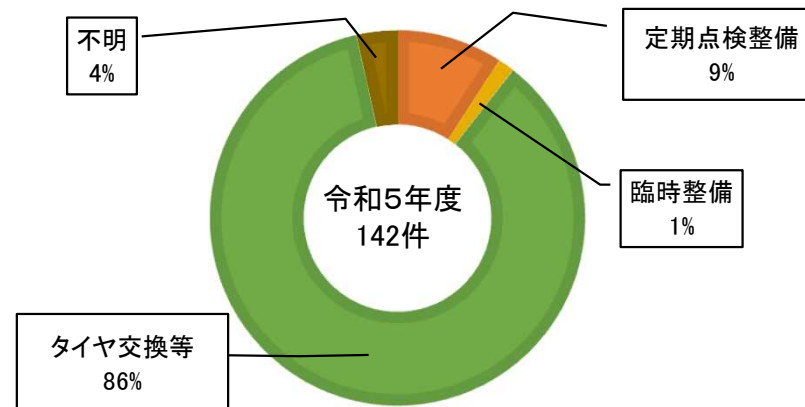
タイヤ脱着作業実施者別発生件数

➤ 約56%が大型車ユーザーによるタイヤ脱着作業後の脱落



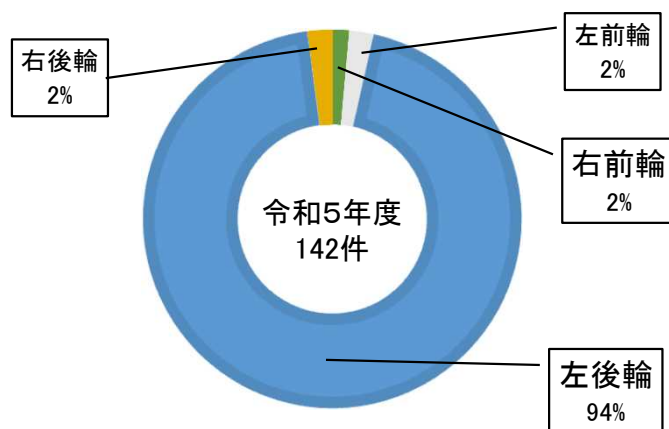
タイヤ脱着作業内容別発生件数

➤ 約86%がタイヤ交換等の実施後の脱落



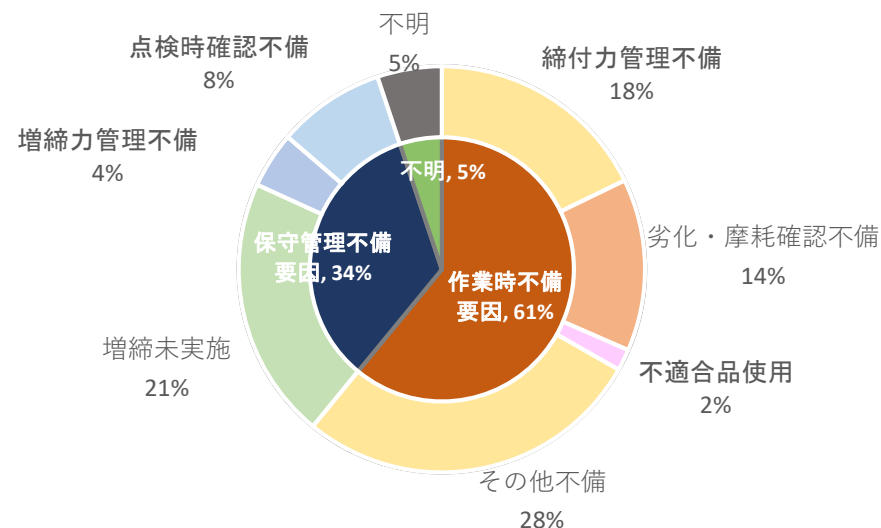
車輪脱落箇所別発生件数

➤ 約94%が左後輪からの脱落



作業及び保守管理の不備

※ 1件の事故に複数の不備もあり



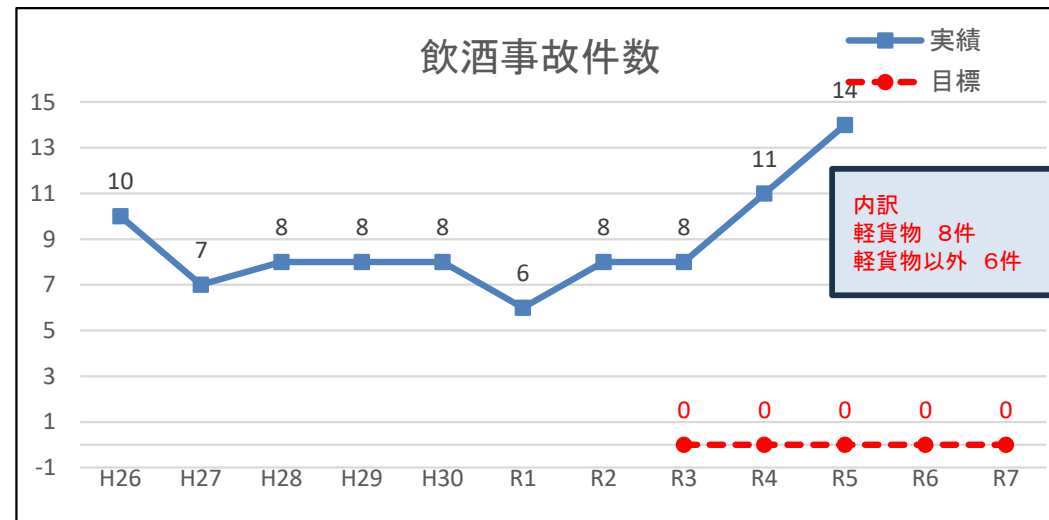
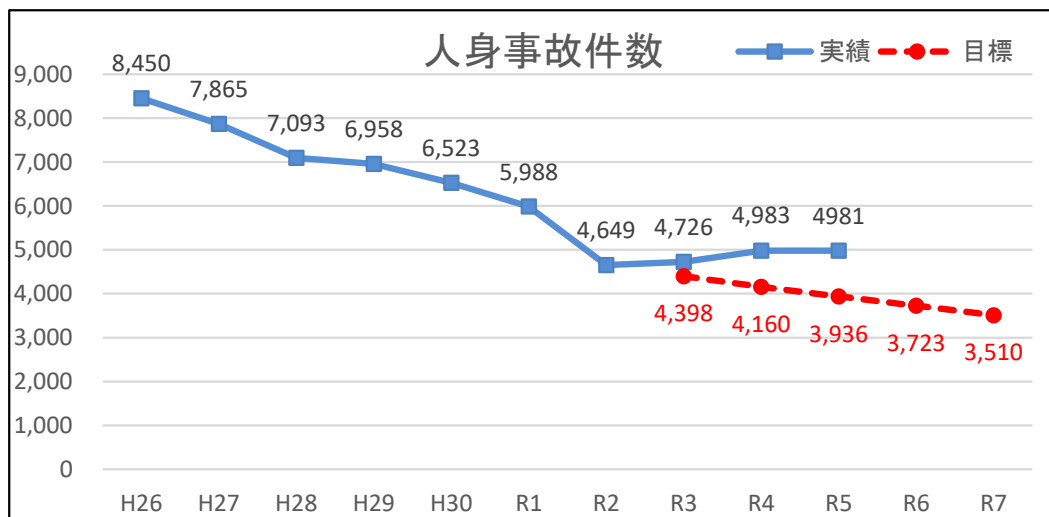
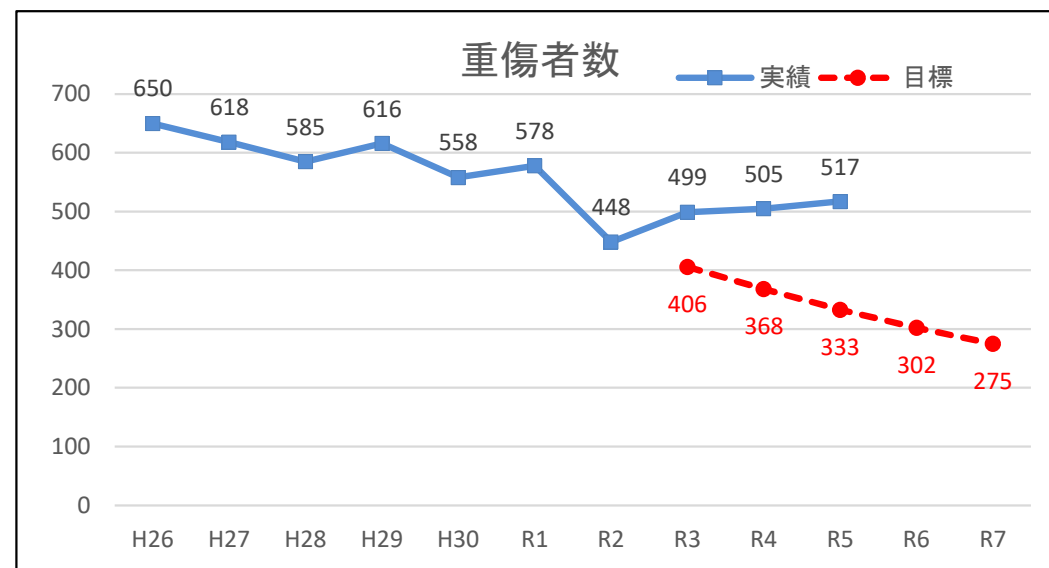
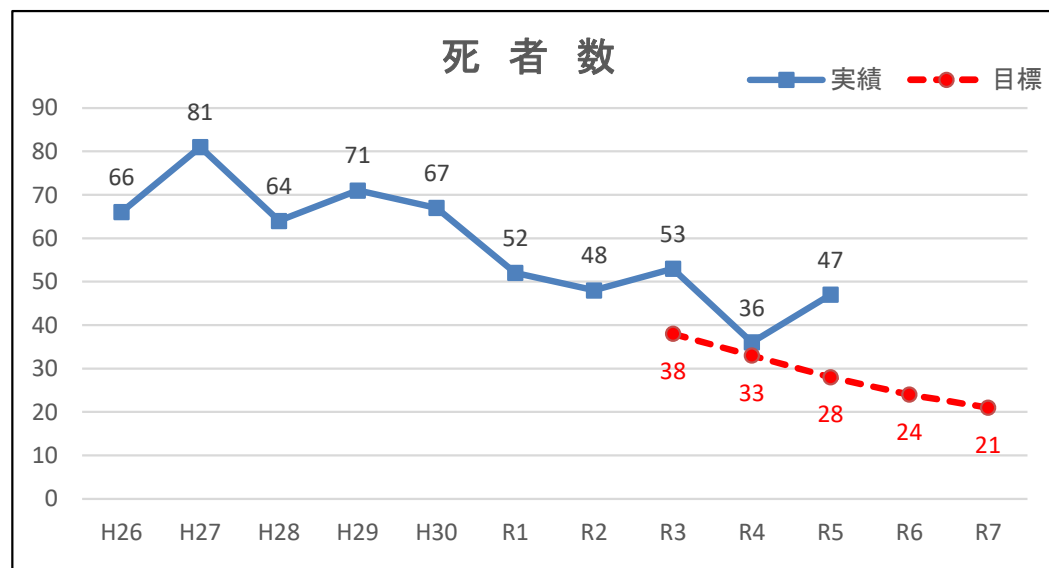
※ 車両総重量8トン以上の自動車又は乗車定員30人以上の自動車であって、車輪を取り付けるホイール・ボルトの折損又はホイール・ナットの脱落により車輪が自動車から脱落した事故

出典：自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

事業用自動車事故削減目標(近畿)

目標値 (プラン2025)

☆死者数21人以下 ☆重軽傷数275人以下 ☆人身事故件数3,510件以下 ☆飲酒運転ゼロ



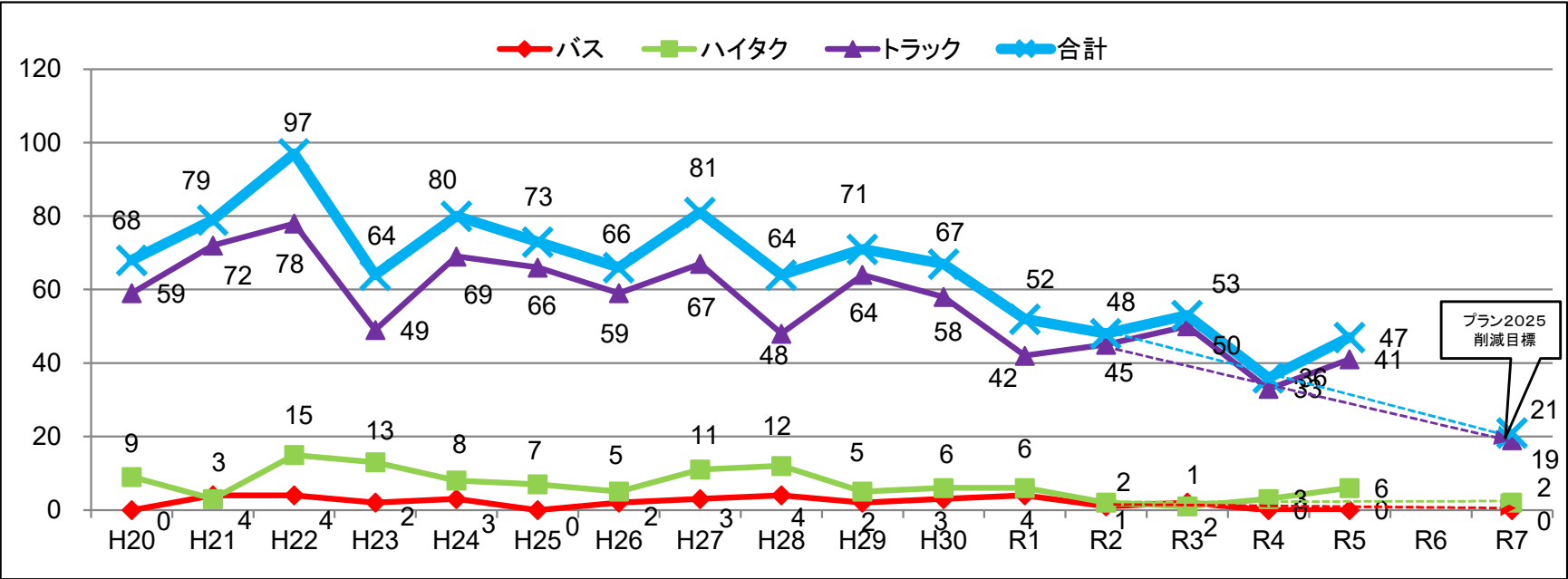
死者数及び人身事故件数は近畿管内の事業用自動車为全国で第一当事者として惹起した数値

出典: (公財)交通事故総合分析センター

事業用自動車の死者数及び人身事故件数(近畿:モード別)

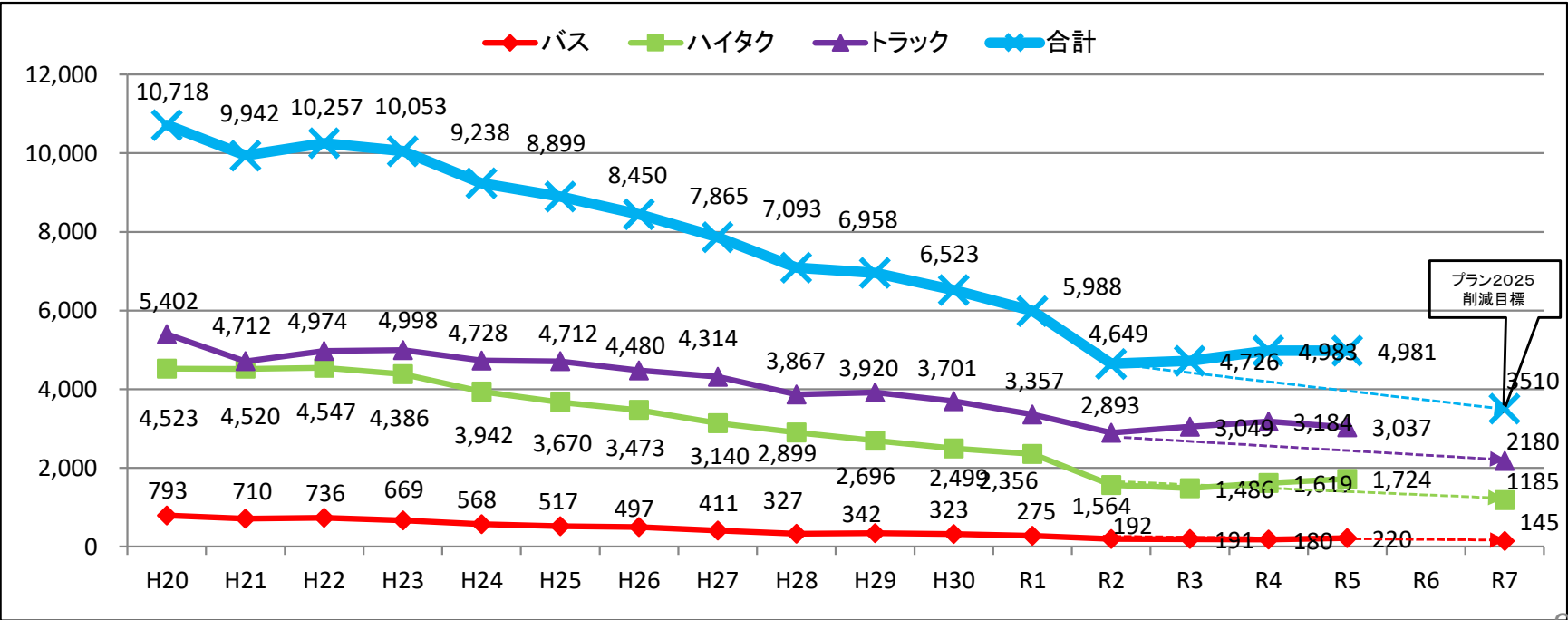
死者数

事故削減目標値
●死者数
バス:0人
ハイタク:2人以下
トラック:19人以下



人身事故件数

事故削減目標値
●人身事故件数
バス:145件以下
ハイタク:1,185件以下
トラック:2,180件以下

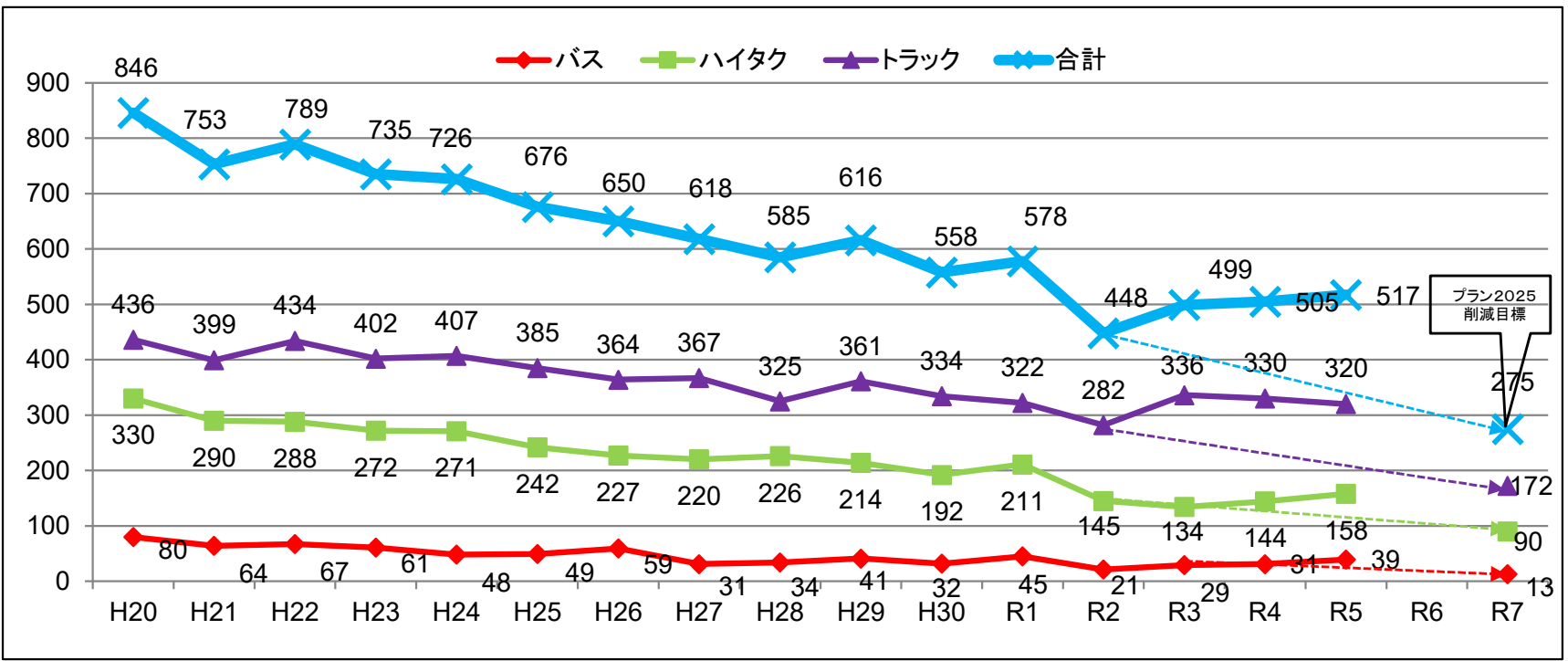


重傷者数

事故削減目標値

●重症者数

バス:13人
ハイタク:90人以下
トラック:172人以下

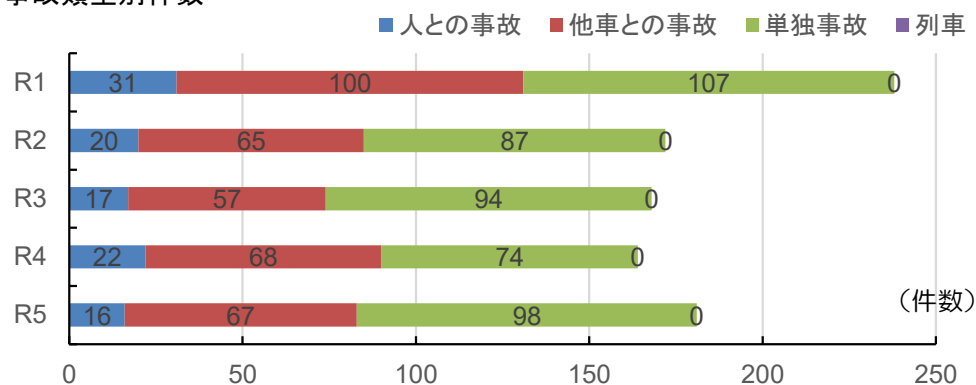


出典:(公財)交通事故総合分析センター

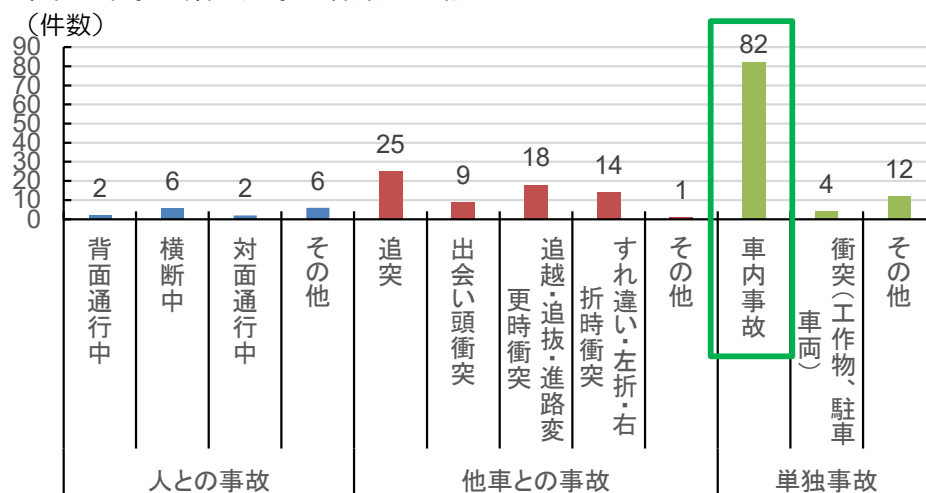
○ 近畿における乗合バスの事故類型としては、「車内事故」が全体の4割を超える82件発生しており、最多。

乗合バスの事故類型

○事故類型別件数



○令和5年事故類型別事故件数の内訳

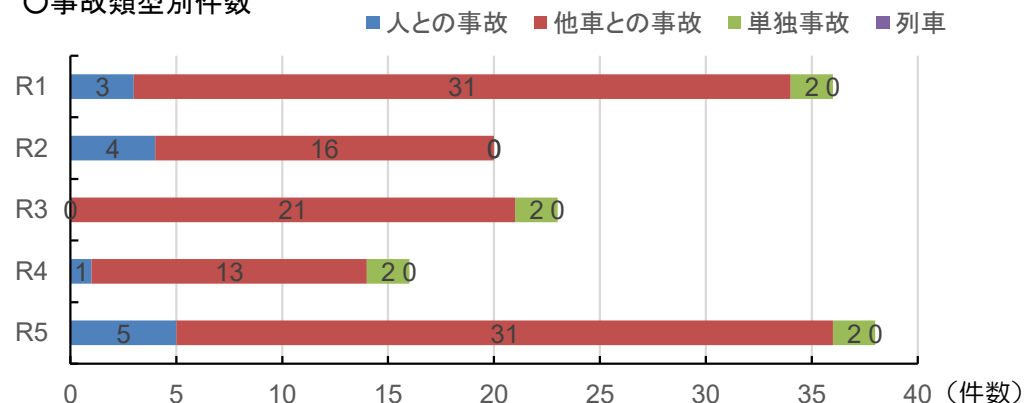


乗合バス
【重点個別目標】
車内事故件数
30件以下

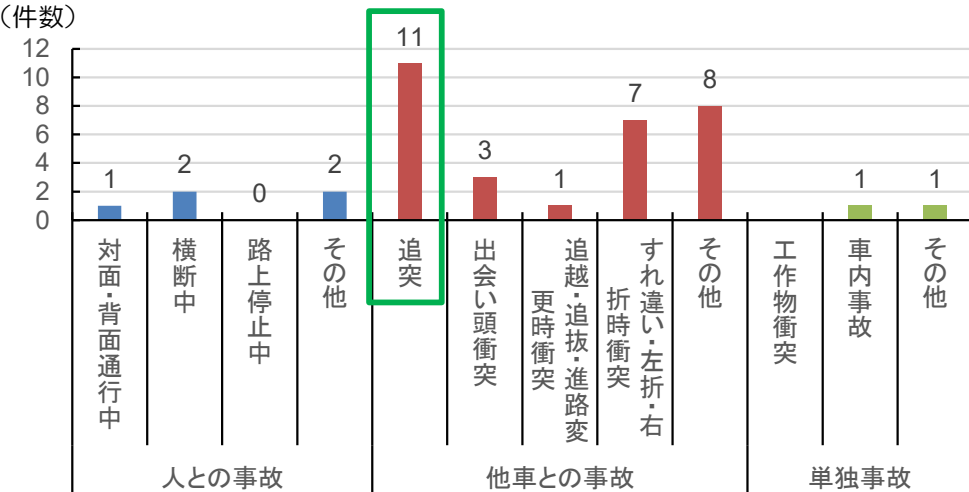
- 貸切バスの事故類型としては、「追突」が全体の約3割にあたる11件発生しており、最多。
- 令和5年の乗客負傷事故は5件、負傷者の6人はすべて軽傷。

貸切バスの事故類型

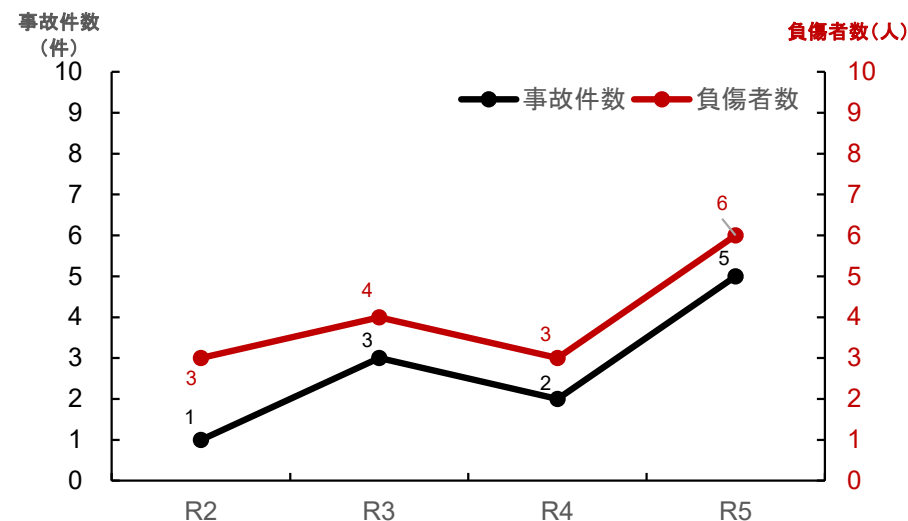
○事故類型別件数



○令和5年事故類型別事故件数の内訳
(件数)



貸切バス
【重点個別目標】
乗客負傷事故件数
0件



※運転者が第1当事者となった事故のうち同乗者が死傷(死亡、重傷、軽傷)した事故件数

○ タクシーの事故類型としては、「出会い頭衝突」、「追突」、「右左折時等の衝突」が多い。

タクシーの事故類型

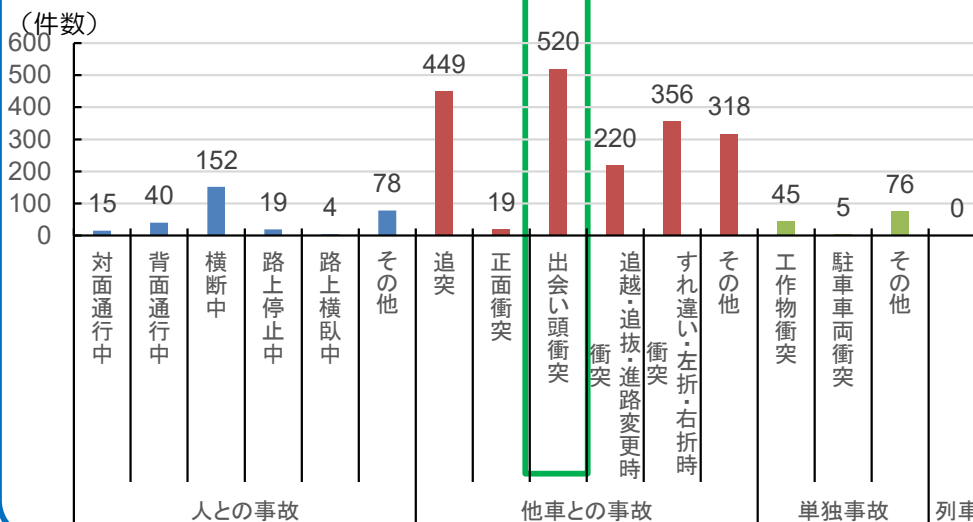
○事故類型別件数

■人との事故

■他車との事故



○令和5年事故類型別事故件数の内訳



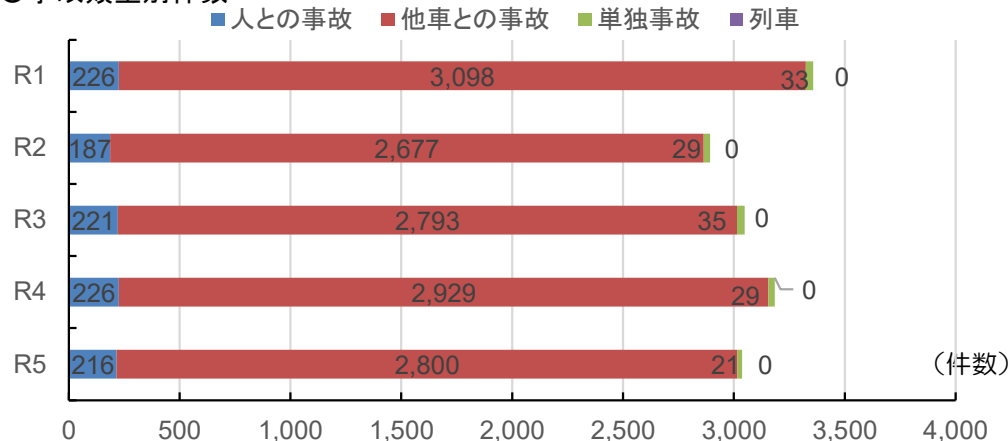
タクシー

【重点個別目標】
出会い頭衝突事故
件数160件以下

○ トラックの事故類型としては、「追突」が全体の約4割にあたる1,218件発生しており、最多。

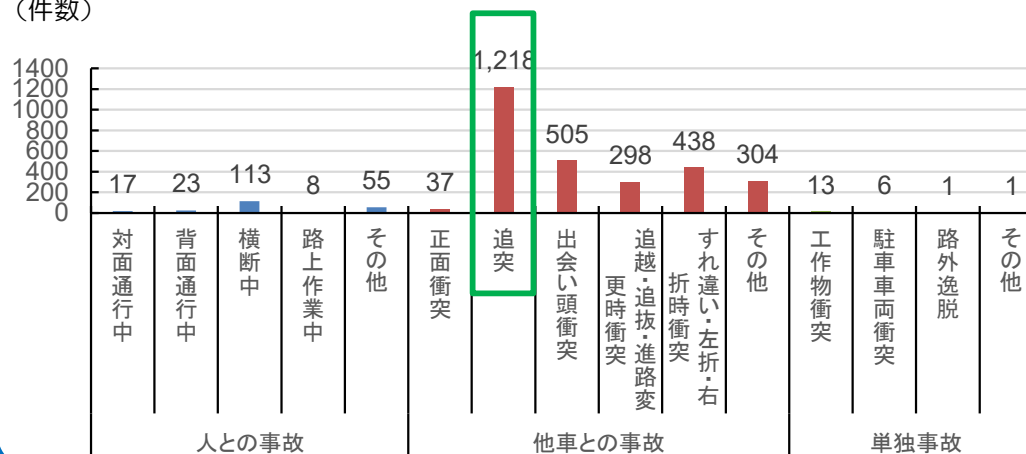
トラックの事故類型

○ 事故類型別件数



○ 令和5年事故類型別事故件数の内訳

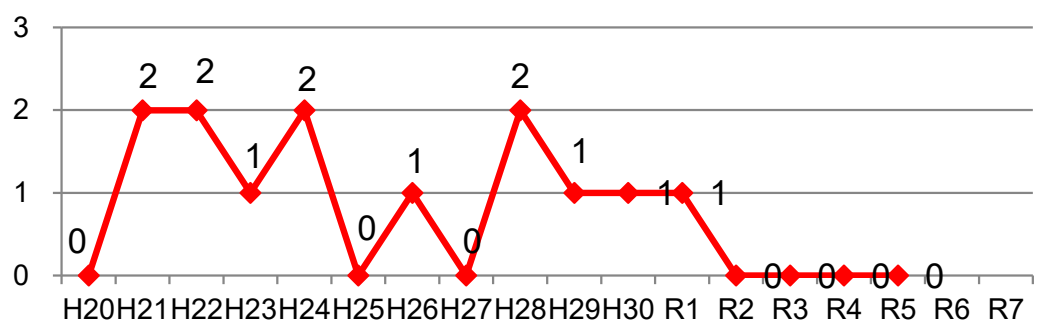
(件数)



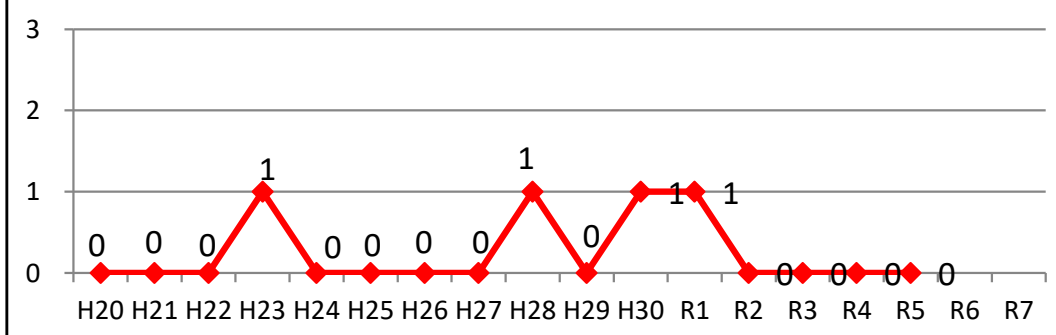
トラック
【重点個別目標】
追突事故件数
705件以下

府県別の事業用自動車の死者数(バス)

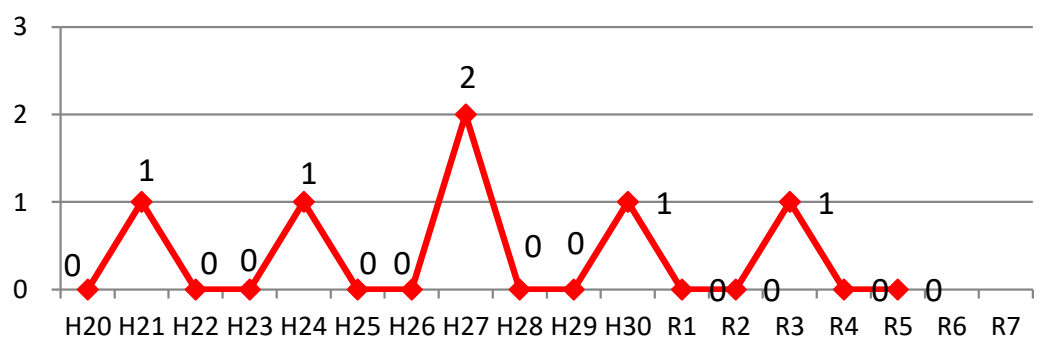
(大阪府)



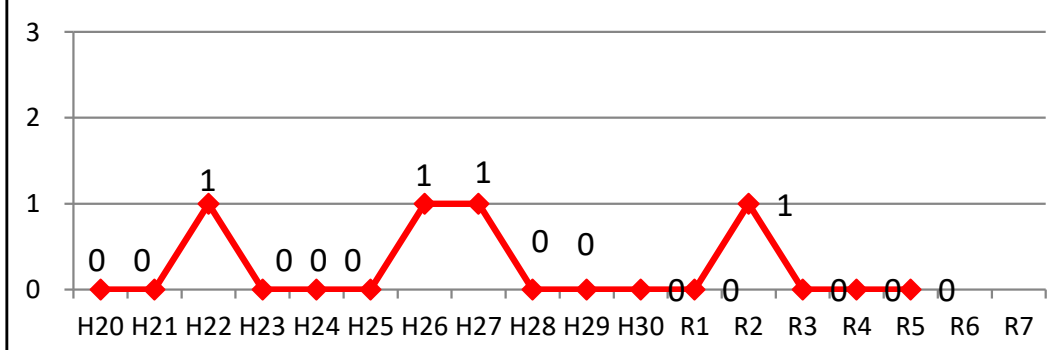
(滋賀県)



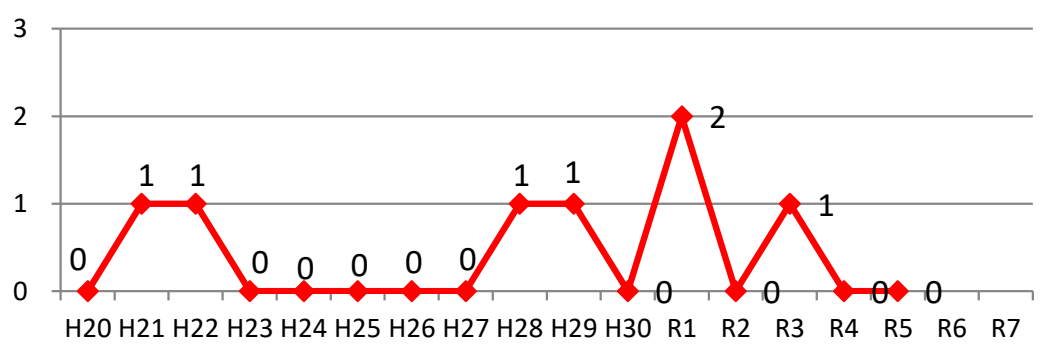
(京都府)



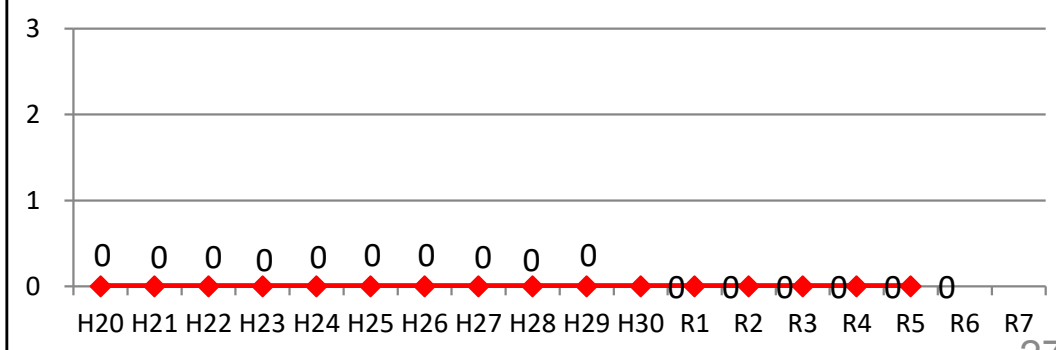
(奈良県)



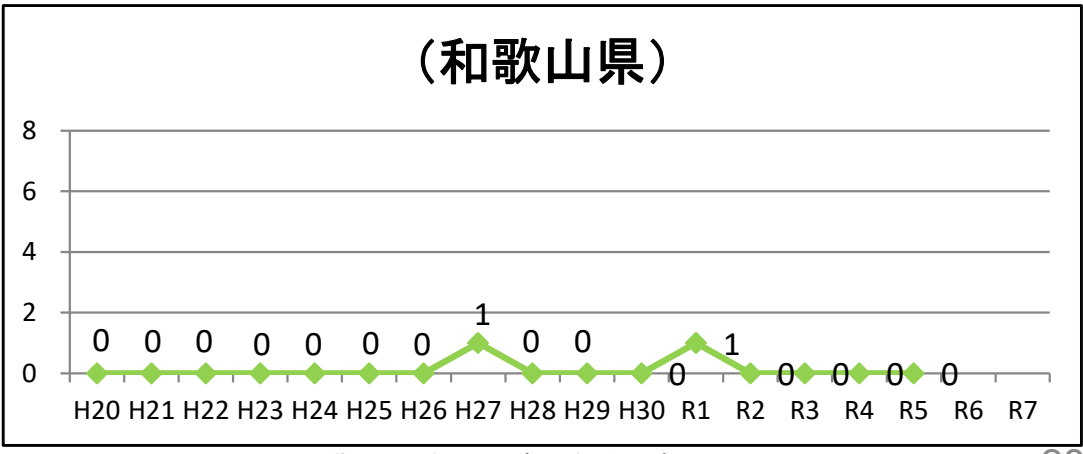
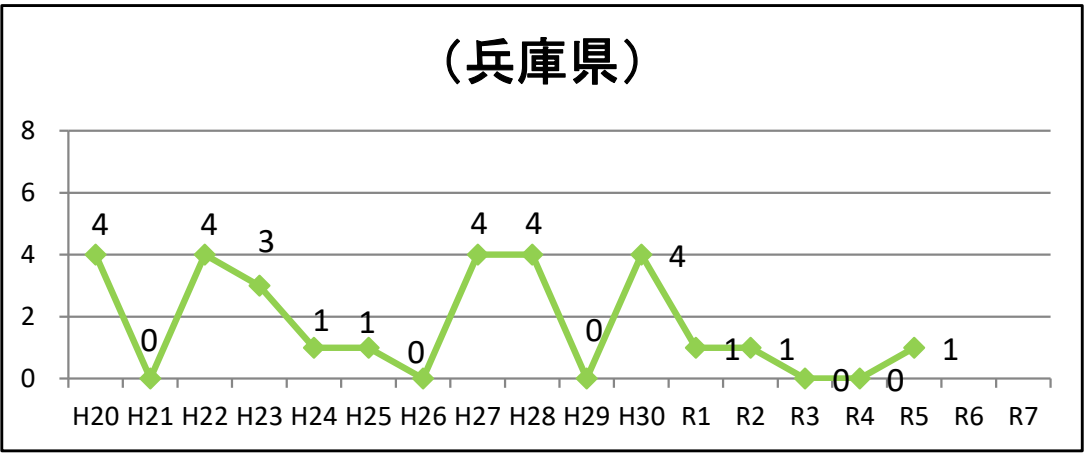
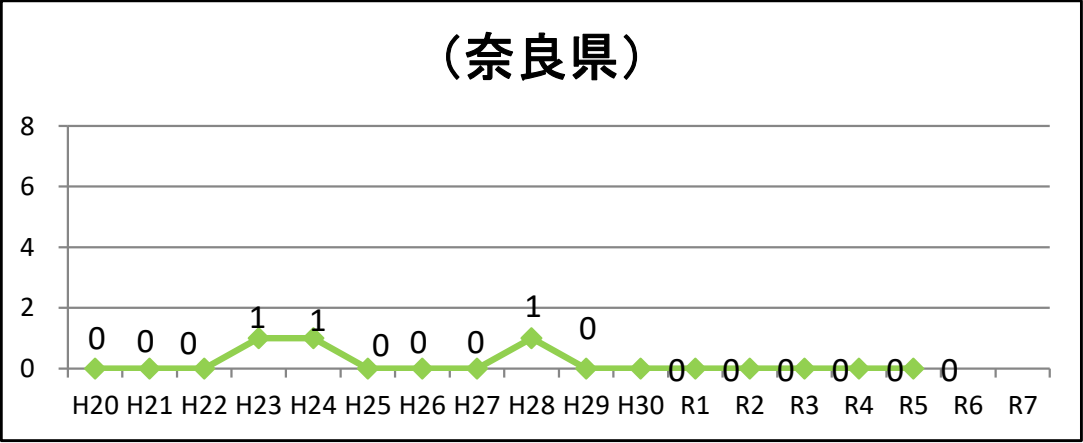
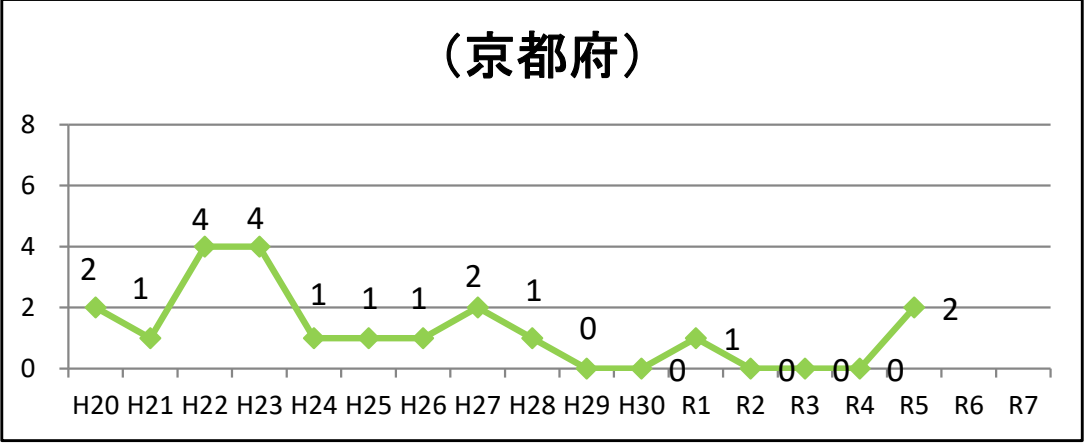
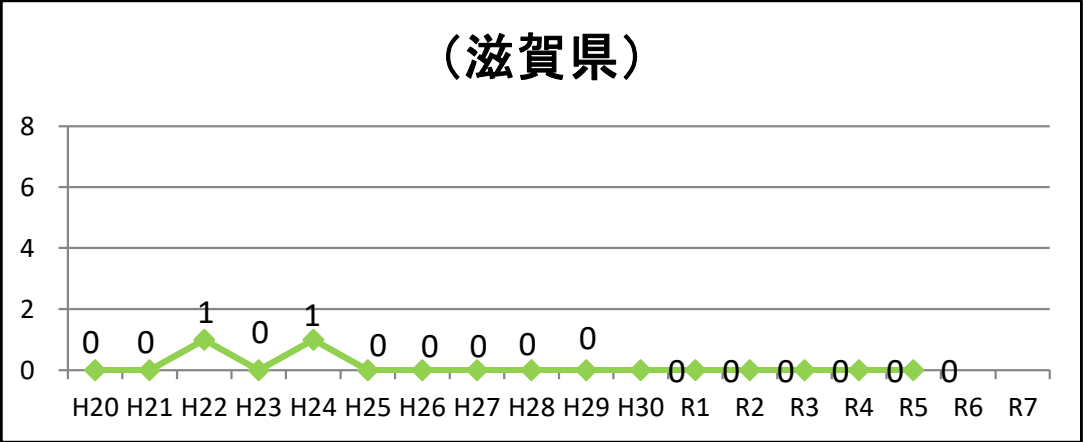
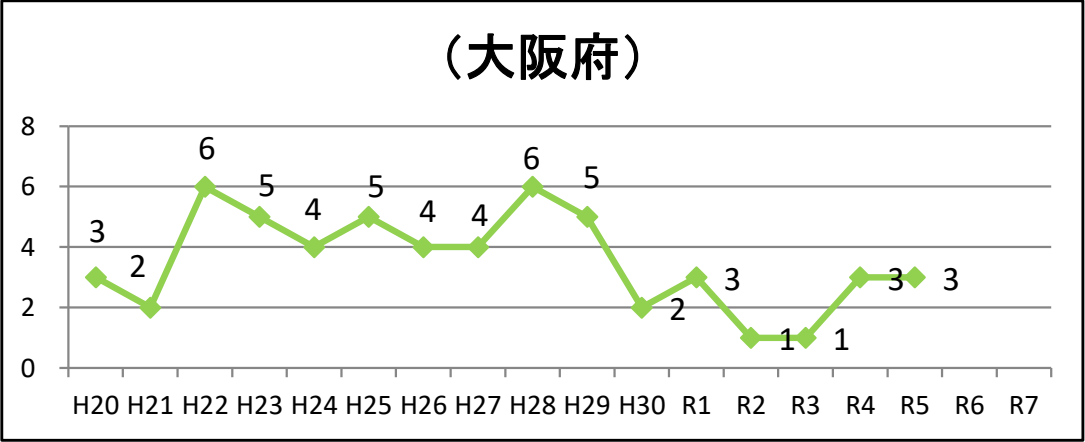
(兵庫県)



(和歌山県)

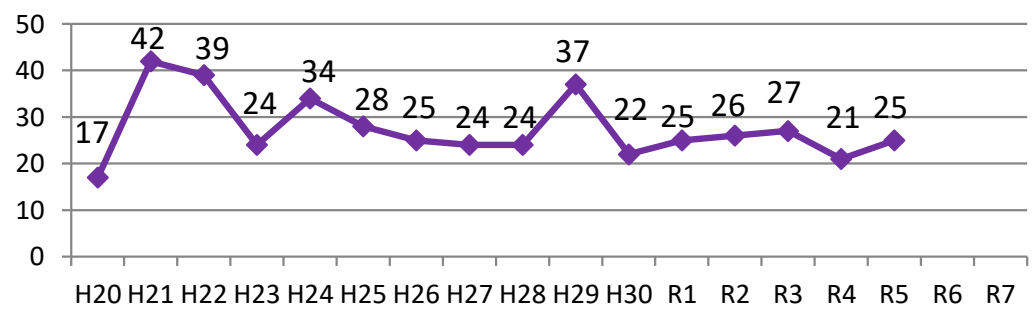


府県別の事業用自動車の死者数(ハイタク)

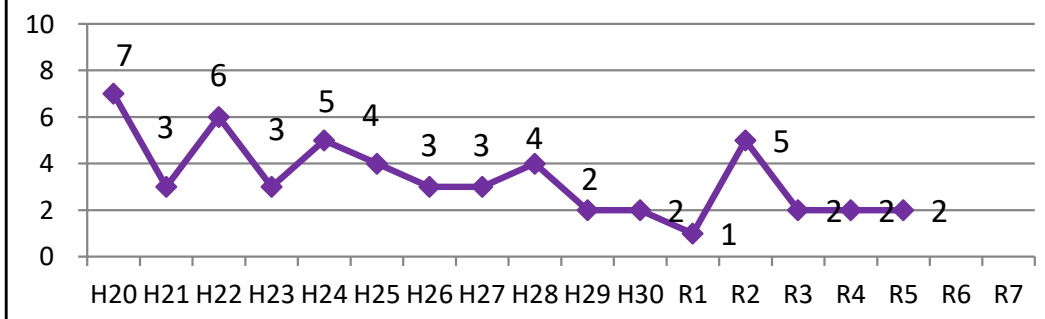


府県別の事業用自動車の死者数(トラック)

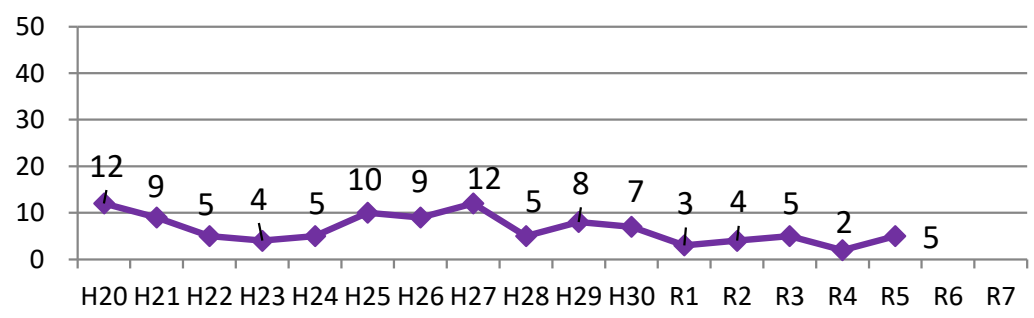
(大阪府)



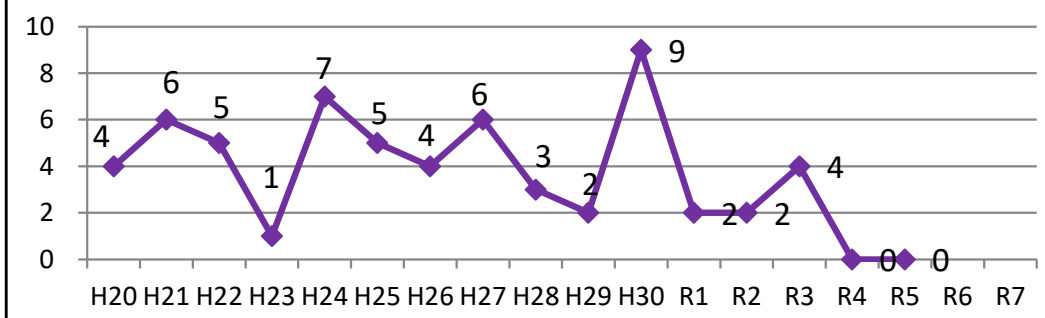
(滋賀県)



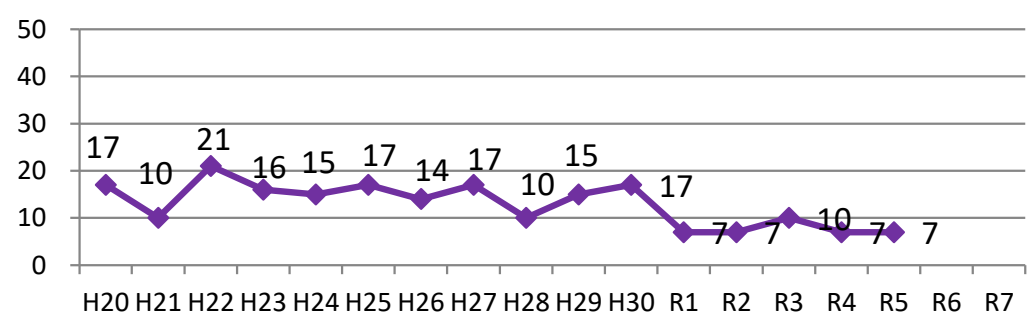
(京都府)



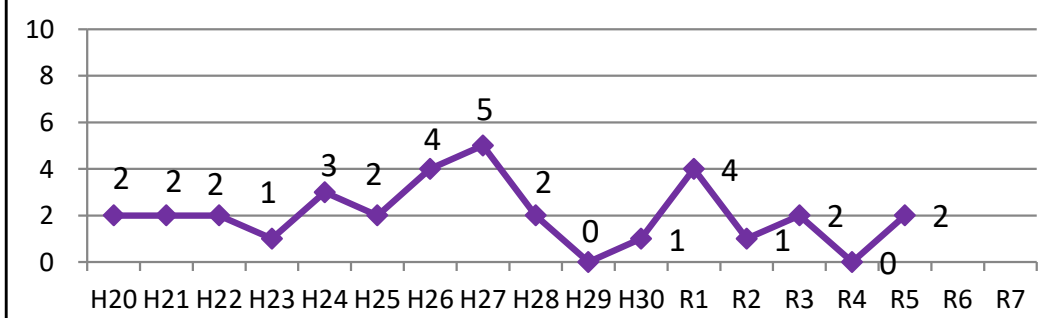
(奈良県)



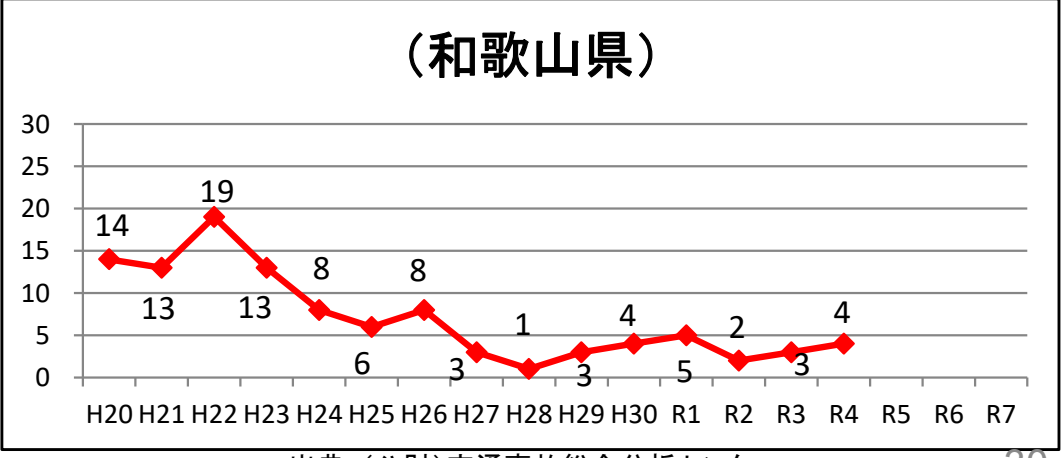
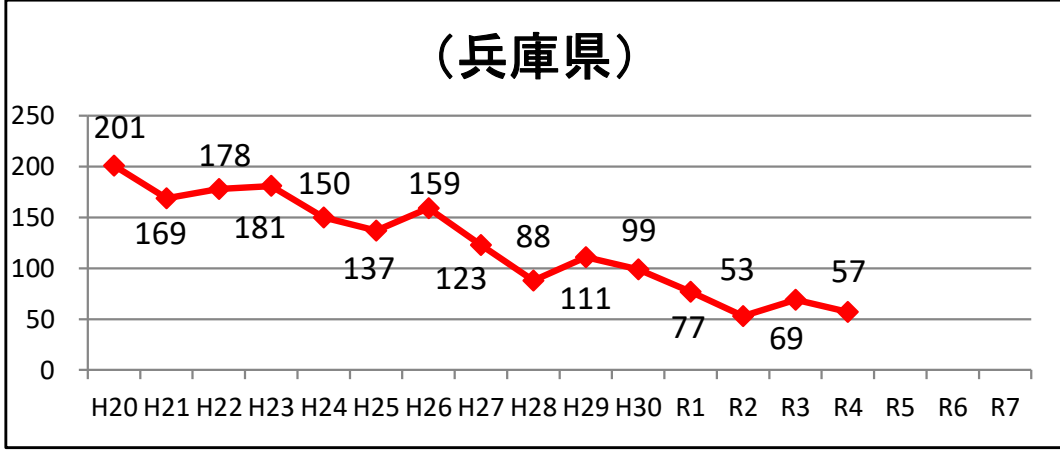
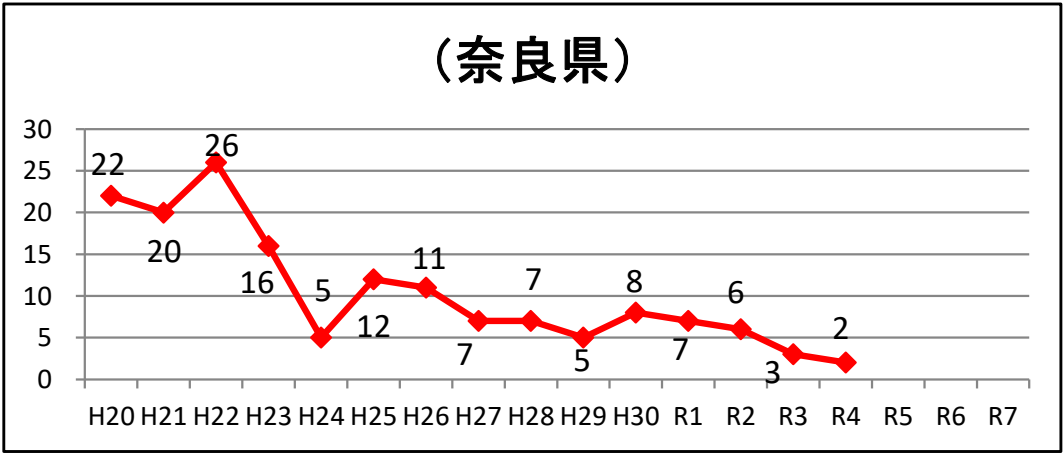
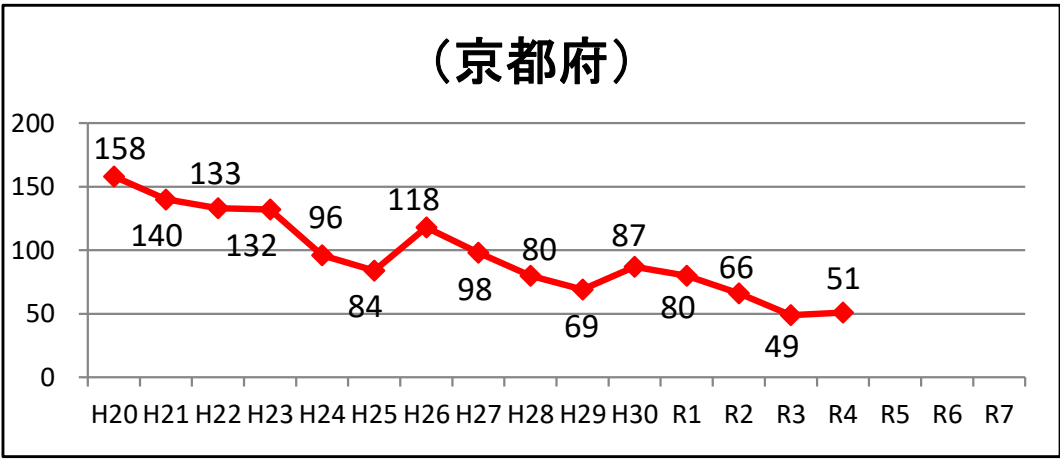
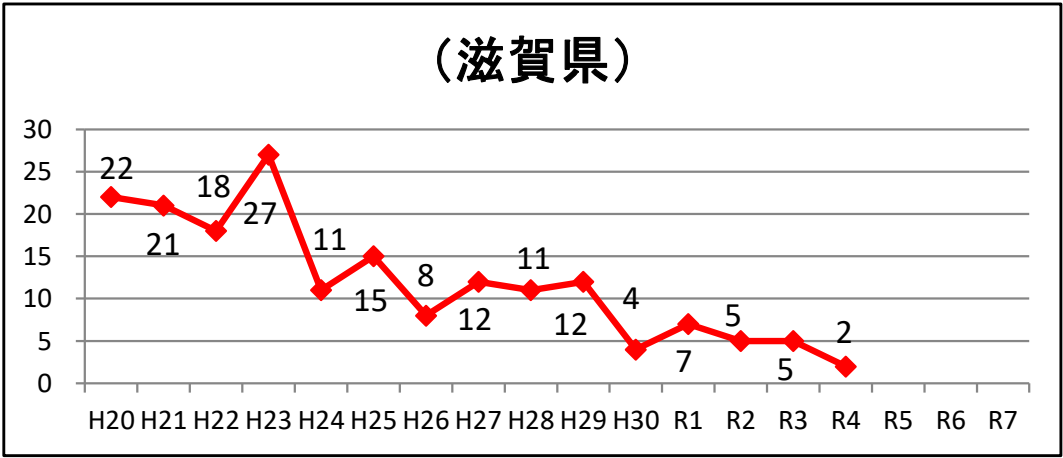
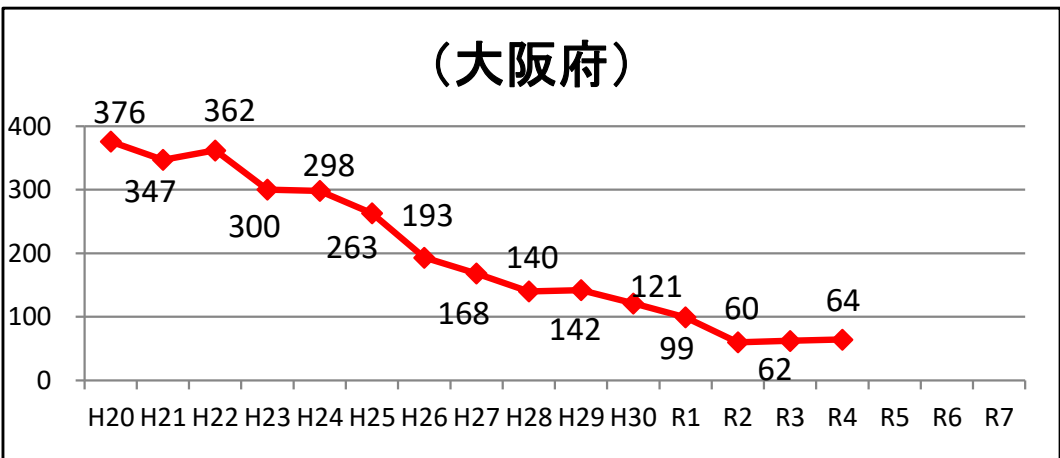
(兵庫県)



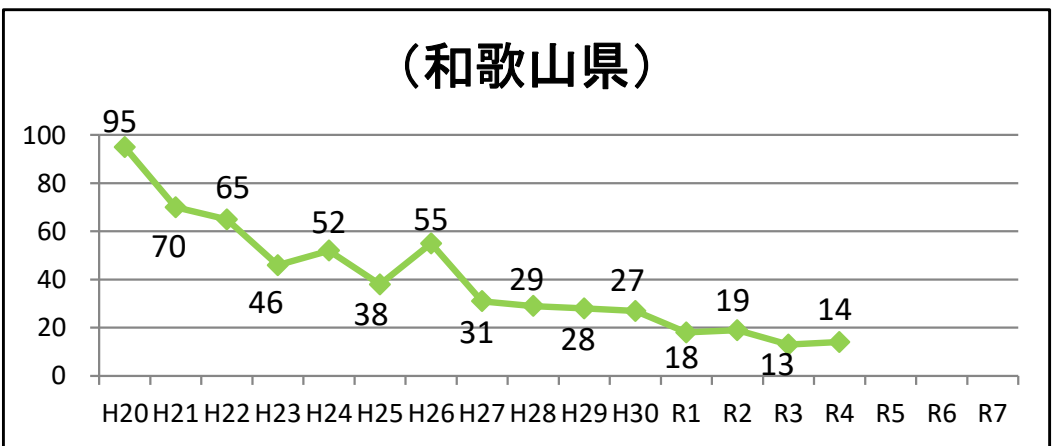
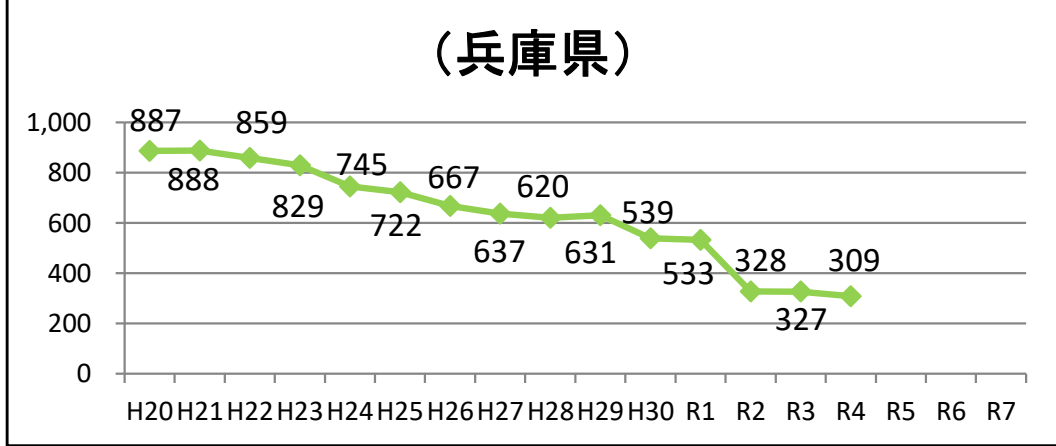
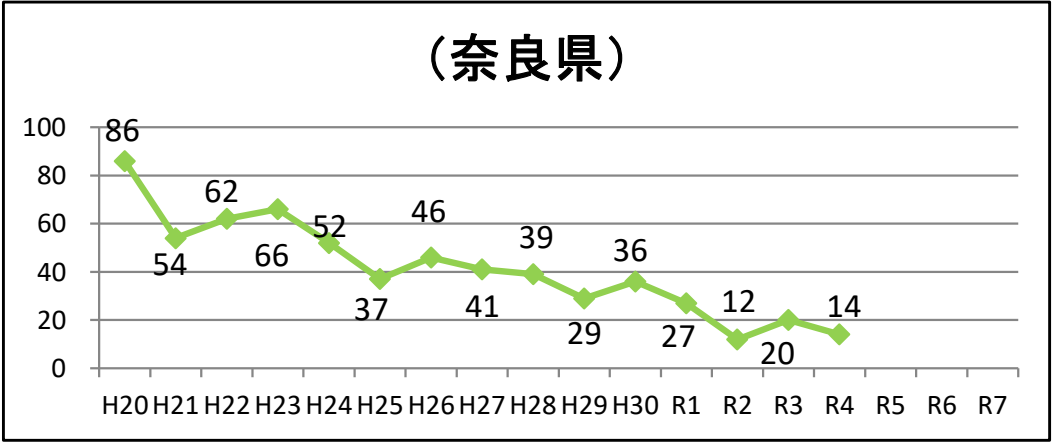
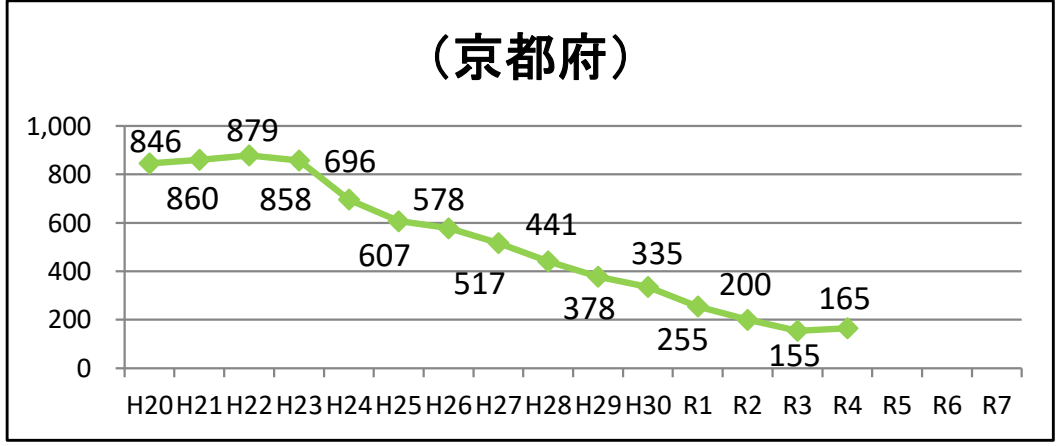
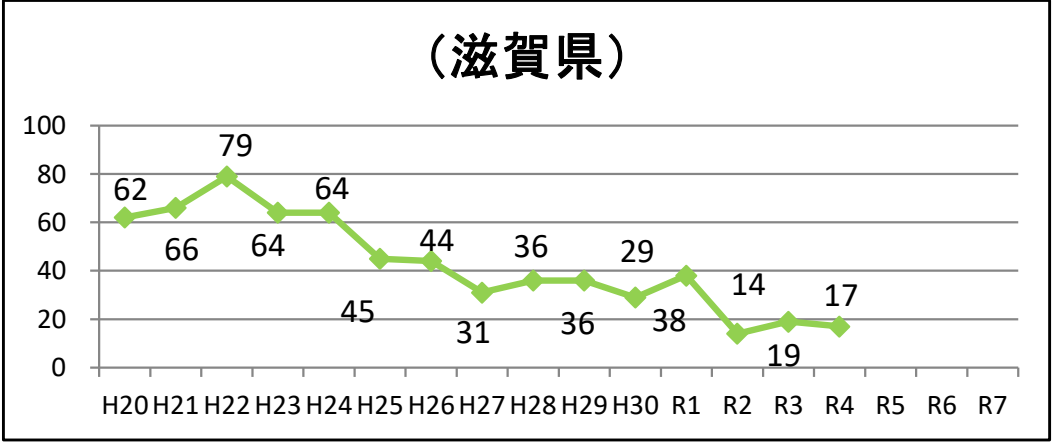
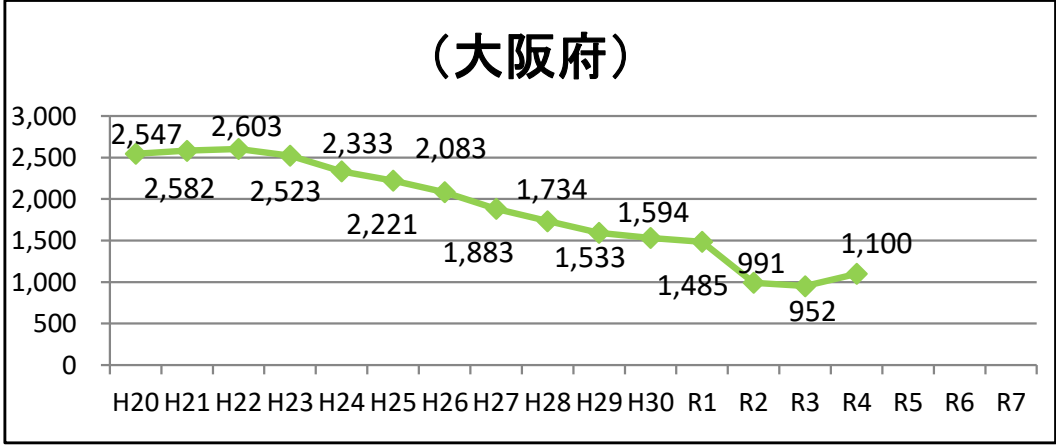
(和歌山県)



府県別の事業用自動車の人身事故件数(バス)

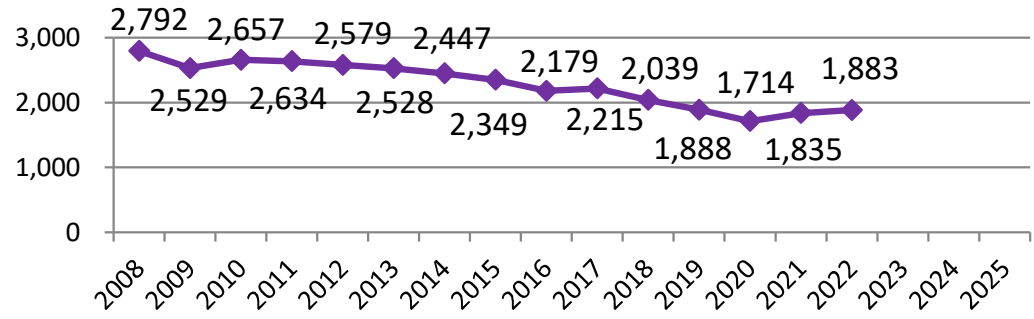


府県別の事業用自動車の人身事故件数(ハイタク)

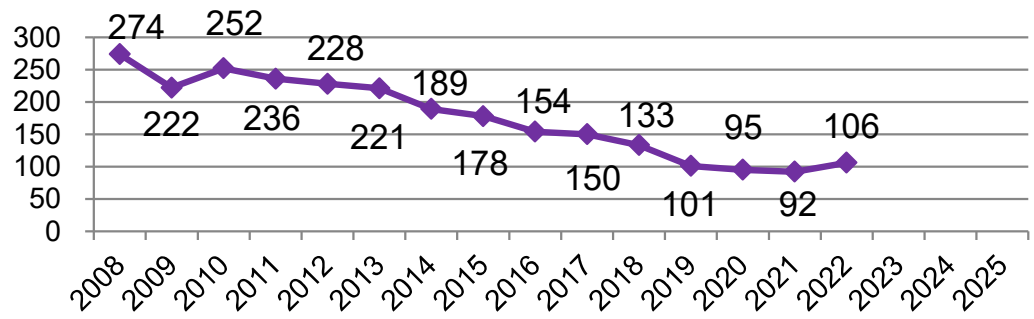


府県別の事業用自動車の人身事故件数(トラック)

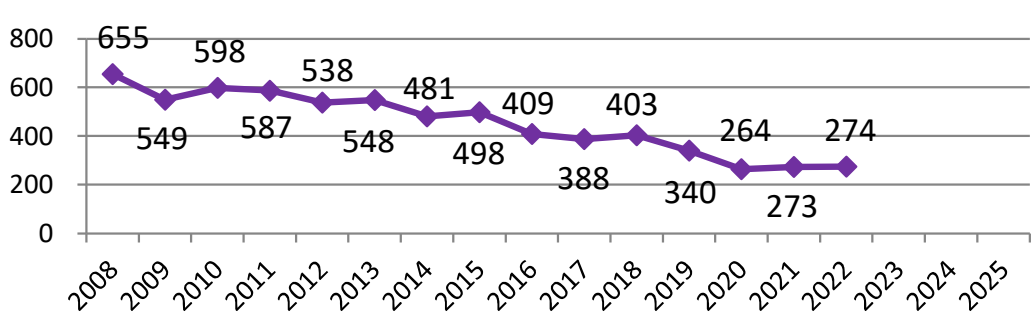
(大阪府)



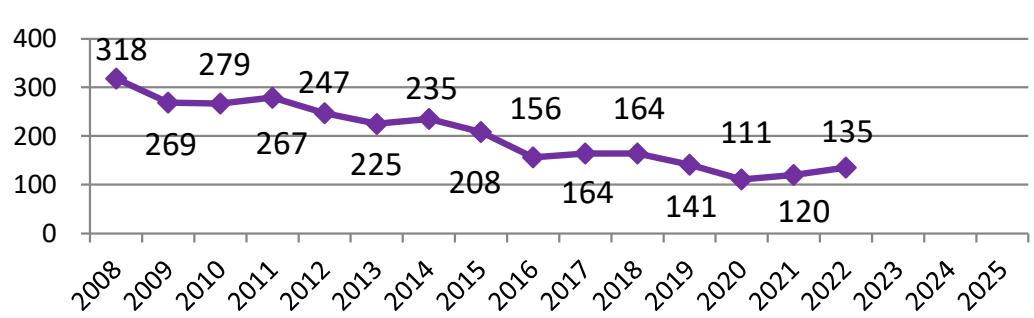
(滋賀県)



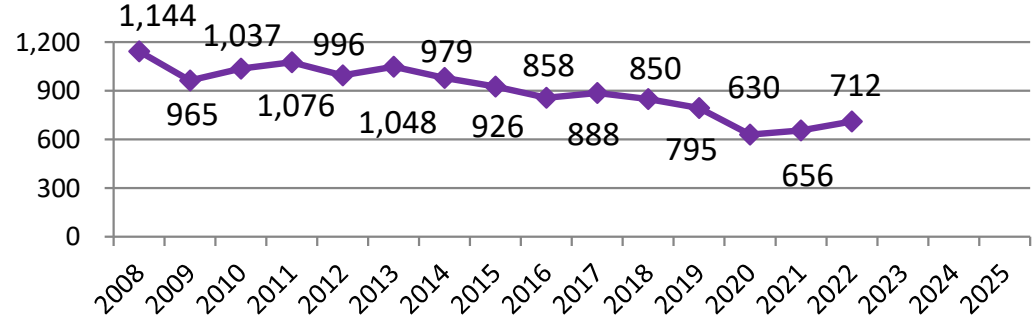
(京都府)



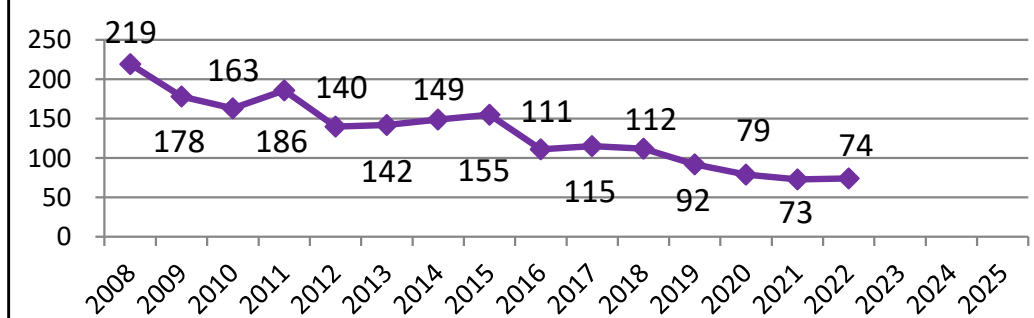
(奈良県)



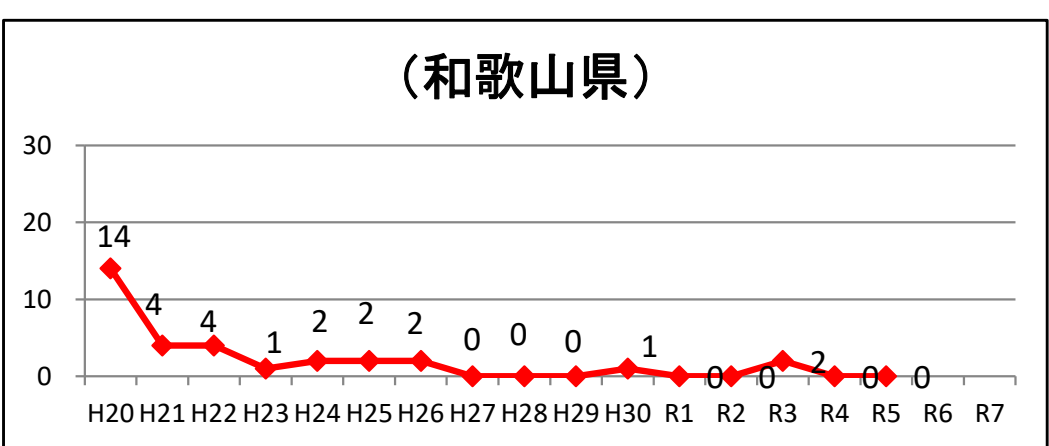
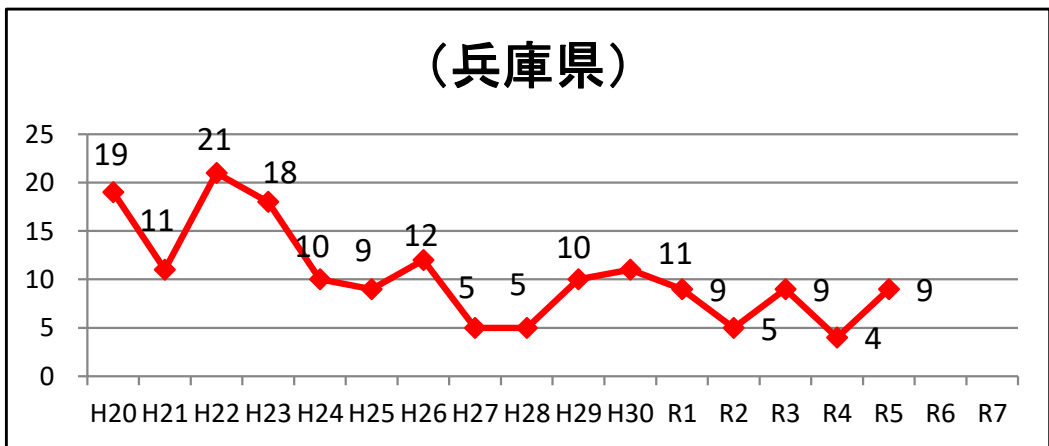
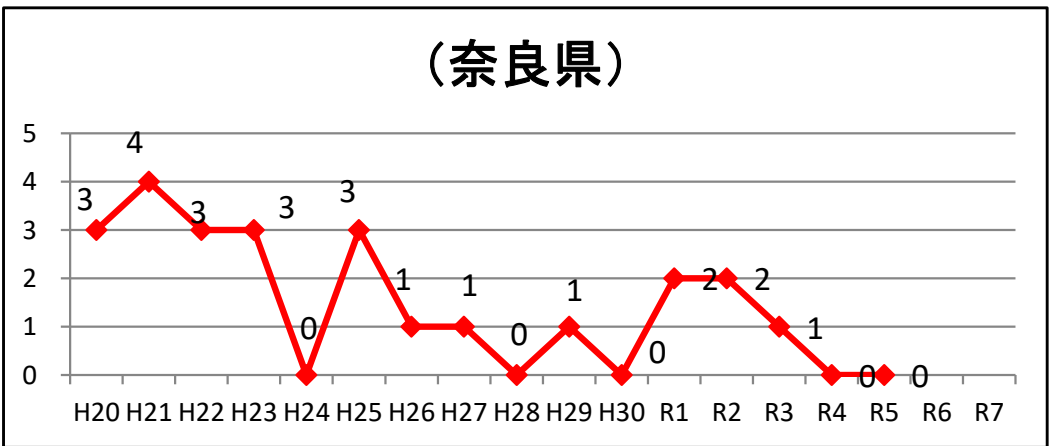
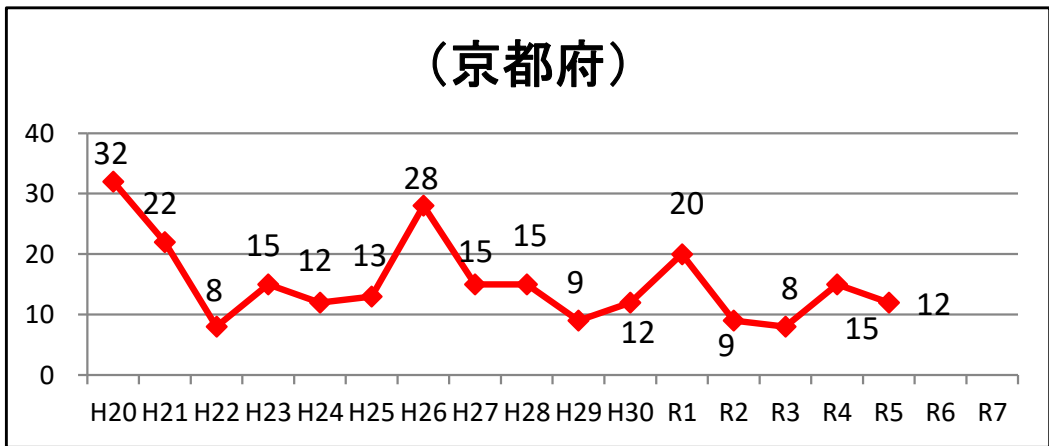
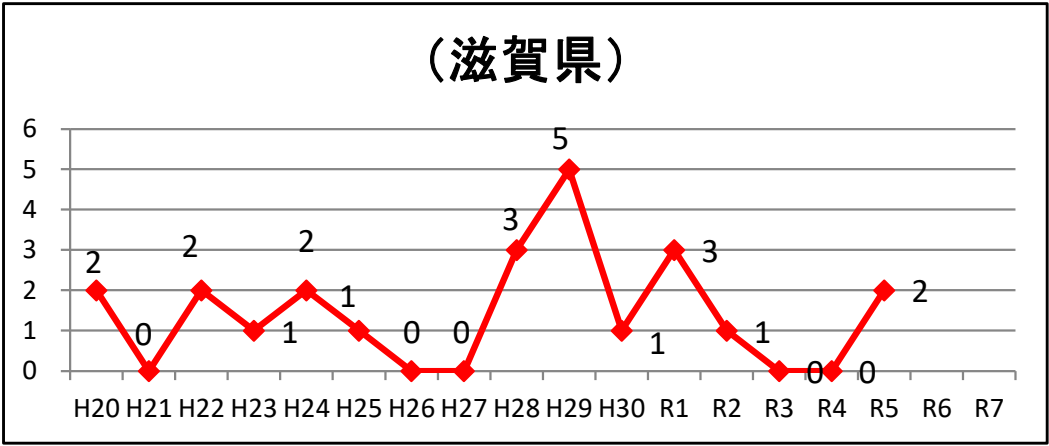
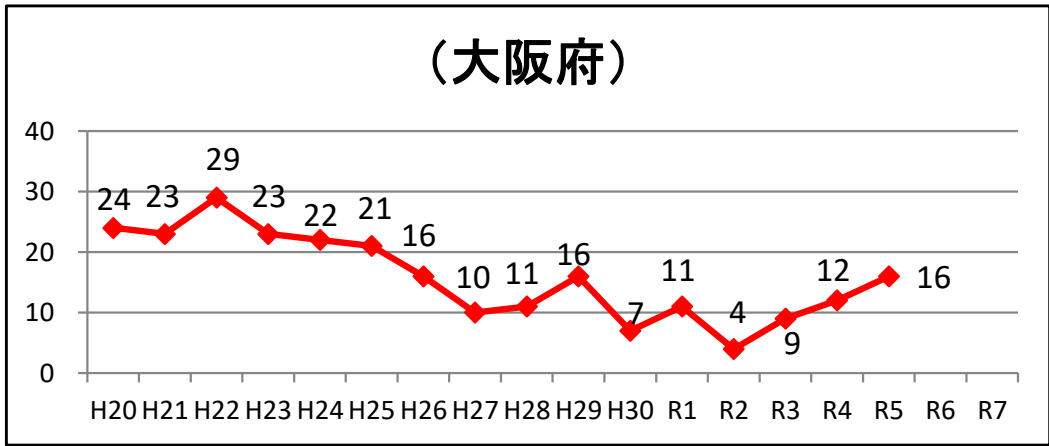
(兵庫県)



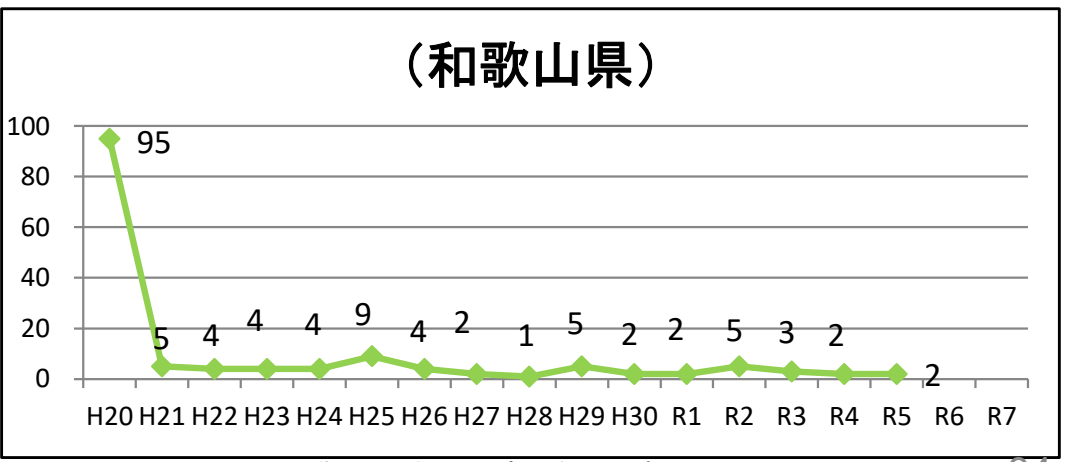
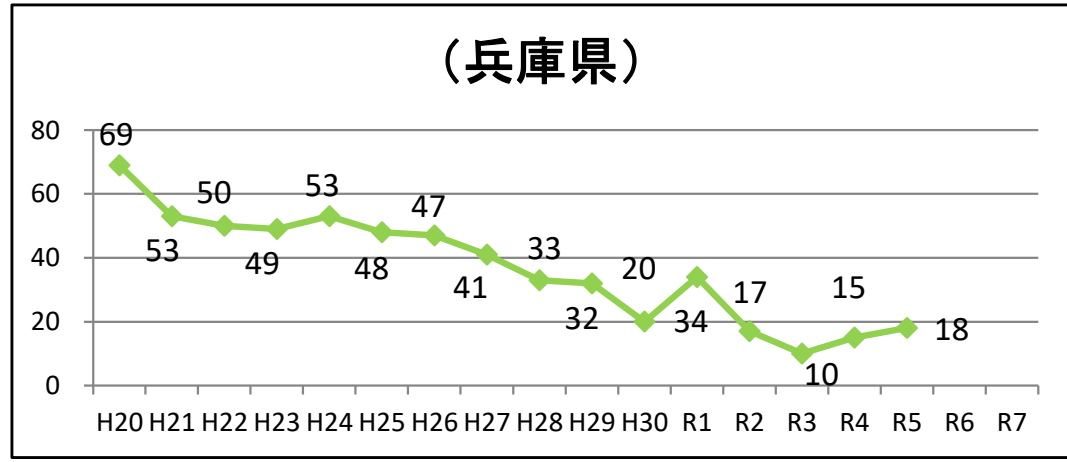
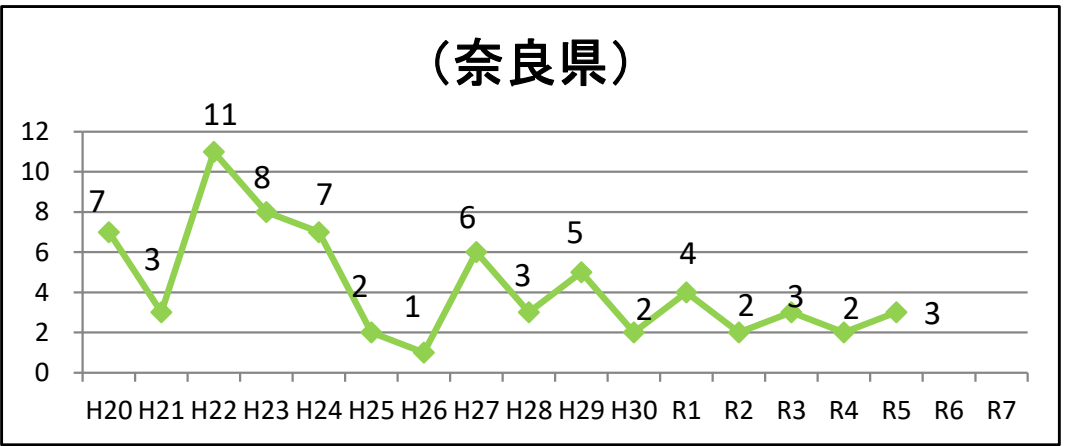
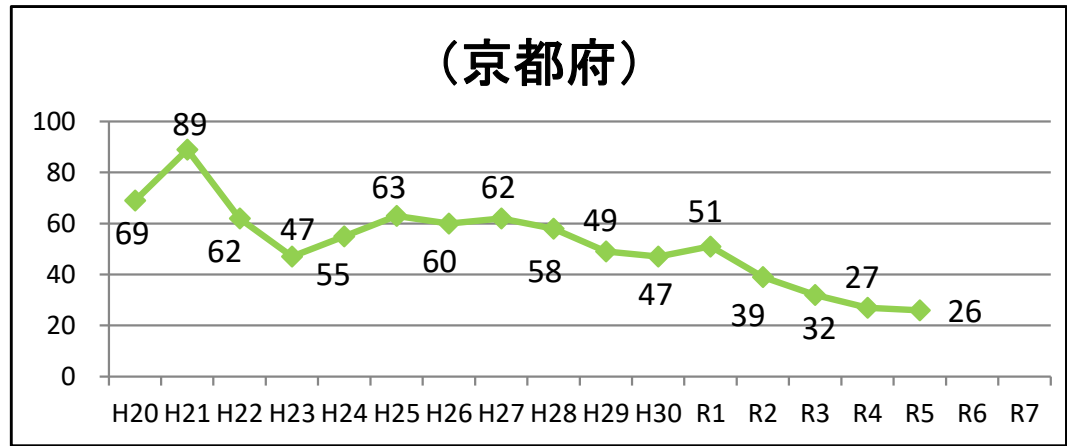
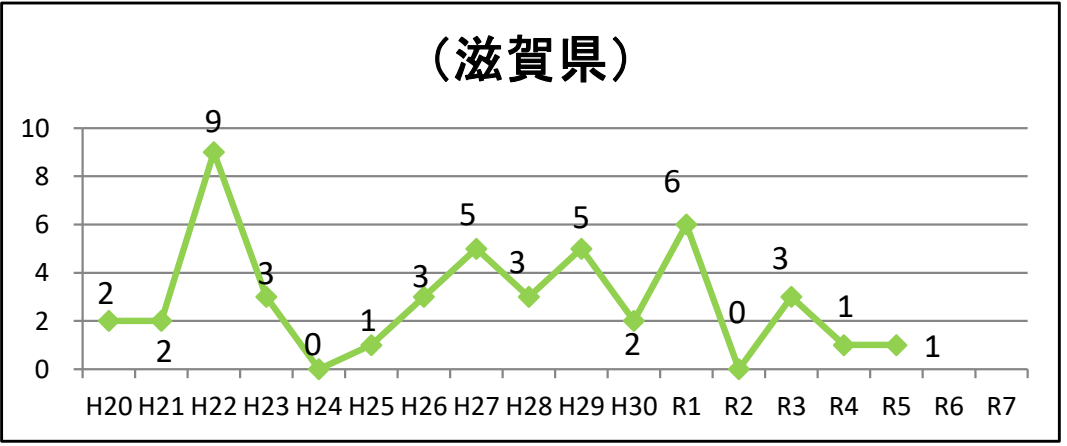
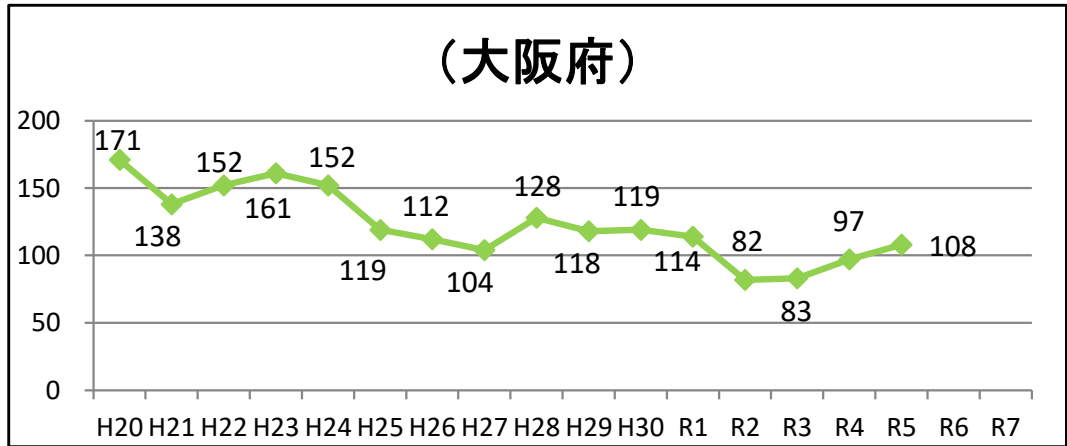
(和歌山県)



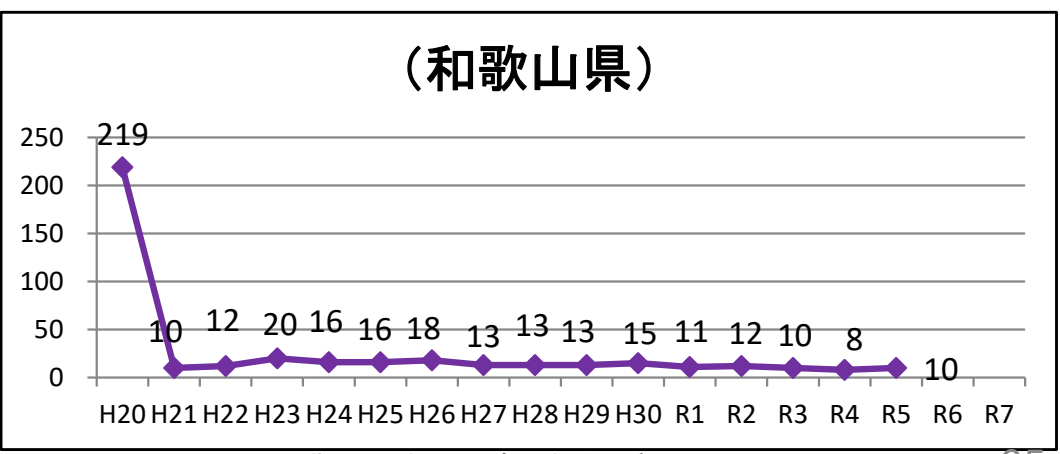
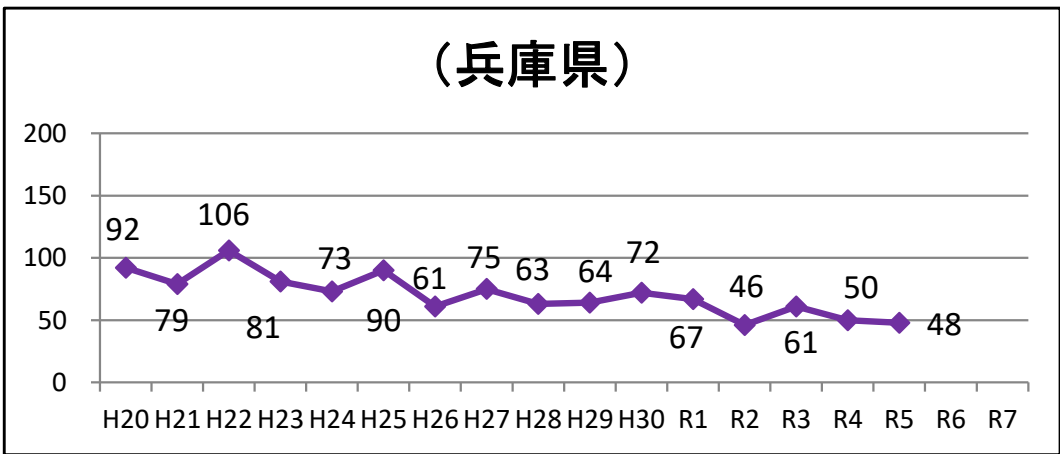
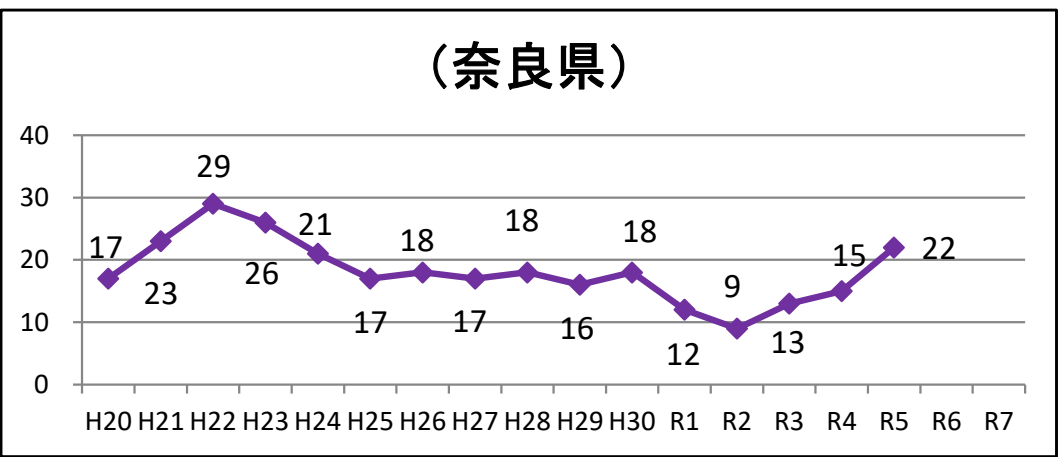
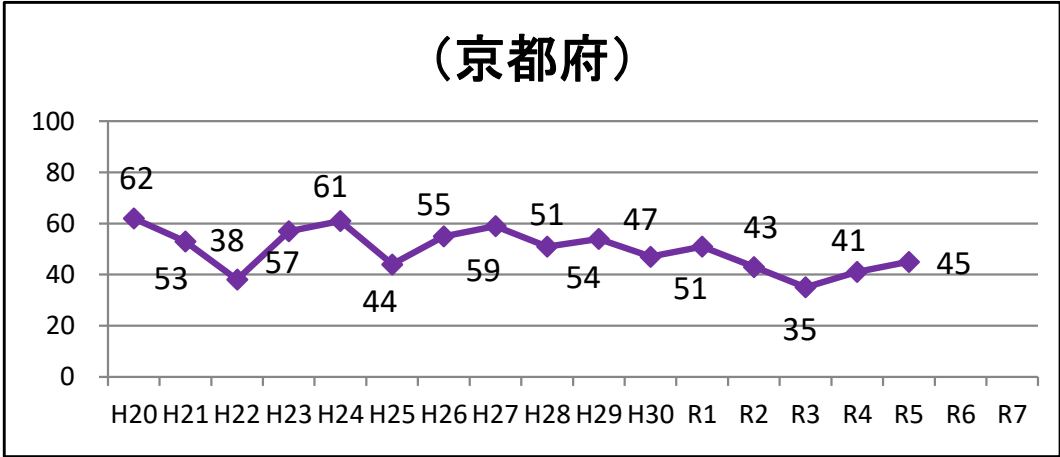
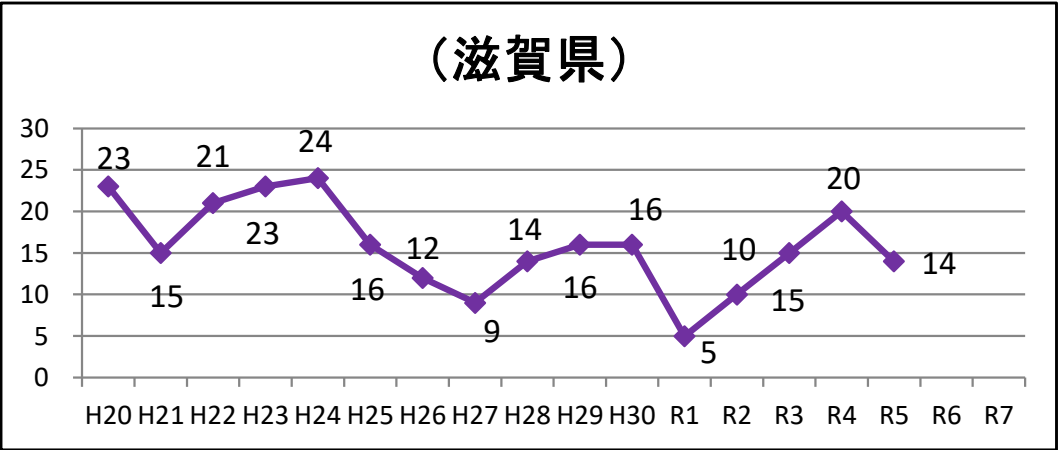
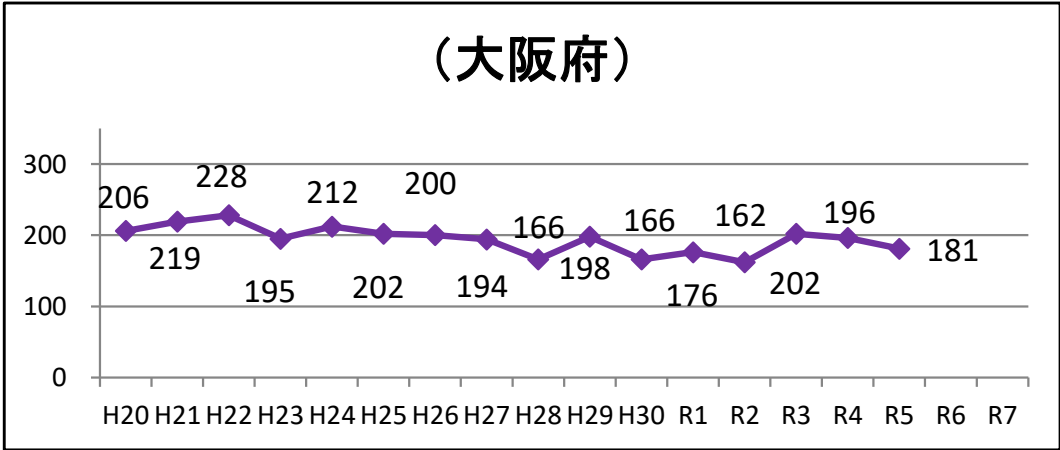
府県別の事業用自動車の重傷者数(バス)



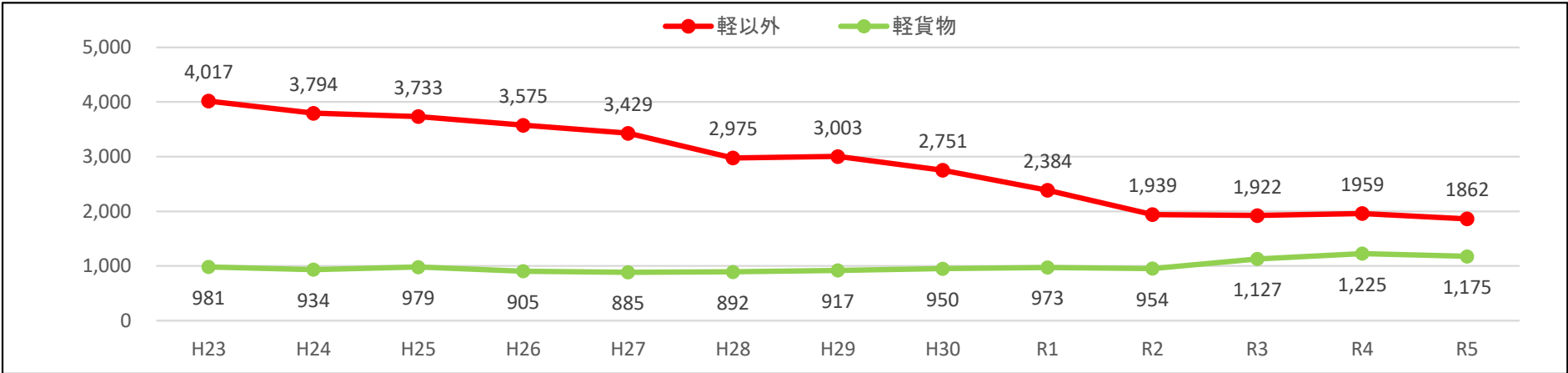
府県別の事業用自動車の重傷者(ハイタク)



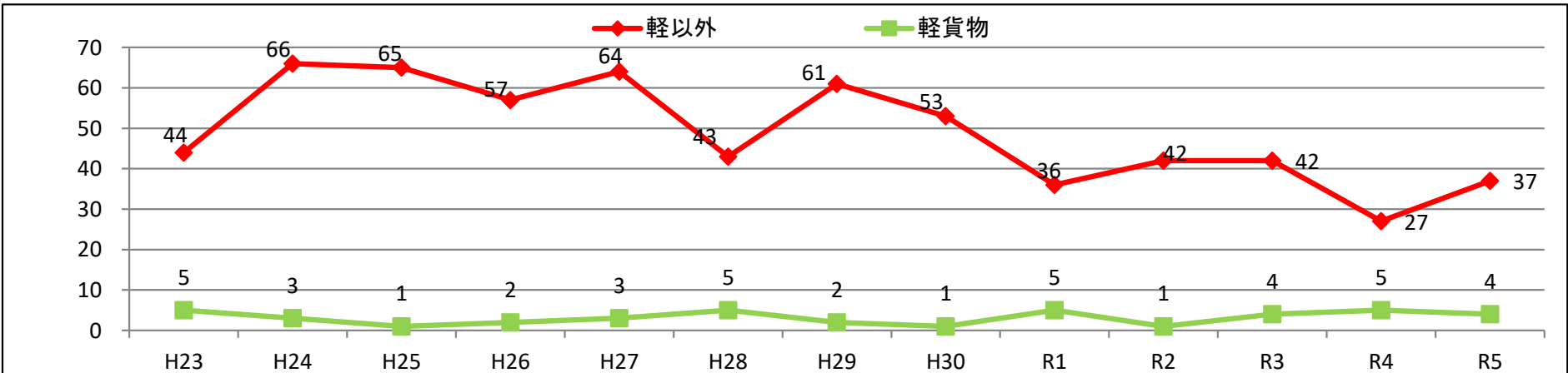
府県別の事業用自動車の重傷者数(トラック)



事故件数



死者数



重傷者数

